

Enterprise Vault™ SMTP アーカイブの設定

12.3

Enterprise Vault™: SMTP アーカイブの設定

最終更新日: 2018-06-05。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の Web サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、Veritas Quick Assist (VQA) ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は Veritas サポート Web サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは Veritas の Web サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

第 1 章	本書について	6
	本書について	6
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先	6
	Enterprise Vault トレーニングモジュール	8
第 2 章	Enterprise Vault SMTP アーカイブの概要	9
	Enterprise Vault SMTP アーカイブについて	9
	SMTP アーカイブ設定	12
	SMTP アーカイブコンポーネント	14
	SMTP ジャーナルについて	17
	SMTP グループジャーナルについて	19
	SMTP メールボックスジャーナルについて	21
	SMTP アーカイブのライセンスについて	22
	Exchange Server または Office 365 から Enterprise Vault へのメッセー ジのジャーナル	23
第 3 章	SMTP アーカイブのインストール	24
	Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントのインストールについて	24
	レポート	25
	監視	25
第 4 章	SMTP アーカイブの設定	26
	SMTP アーカイブを設定する手順	26
	構成の計画	29
	サイトの Enterprise Vault SMTP サーバーの設定	34
	接続するホストの名前または IP アドレスの入力	36
	SSL/TLS 証明書の入手	38
	SMTP メッセージのメッセージ追跡の設定	40
	SMTP アーカイブタスクと保存フォルダの追加	42
	SMTP 保存フォルダについて	43
	アーカイブ済みメッセージのセーフコピーの保存	45
	タスクの概略レポート	45
	保持カテゴリと保持計画の設定	46

	複数のアーカイブでのカスケード保持設定の管理	48
	SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループの保持の変更 について	50
	SMTP ポリシーの作成	51
	X-Header について	53
	SMTP メッセージのアーカイブの設定	58
	アーカイブの負荷を複数のサーバー間で分散するための複数のアー カイブの割り当て	61
	SMTP ルーティングアドレスの追加	61
	SMTP ジャーナルの設定の確認	63
	Compliance Accelerator の追加設定	64
第 5 章	SMTP グループまたは SMTP メールボックスジャー ナル用のユーザーのプロビジョニング	65
	SMTP プロビジョニンググループについて	65
	SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループの追加	70
	SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループの追加	71
	SMTP プロビジョニンググループの順序の変更	72
	SMTP プロビジョニンググループの削除	73
	SMTP プロビジョニングタスクの追加または削除	74
	SMTP プロビジョニングタスクの概略レポート	75
	SMTP サイト設定[選択したジャーナルのアーカイブ]の設定	75
	SMTP ターゲットアドレスの手動での追加	77
第 6 章	SMTP ダッシュボードの使い方	79
	SMTP ダッシュボードについて	79
	[概略] ページの使用	80
	[検索] ページの使用	80
	[SMTP アーカイブ] ページの使用	81
第 7 章	PowerShell cmdlet	82
	SMTP アーカイブの PowerShell コマンドレットについて	82
付録 A	ターゲットアドレスの書き換えの設定	84
	ターゲットアドレスの書き換えについて	84
	ターゲットアドレスの書き換えを設定する手順	87
	SMTP ターゲットアドレスの追加	87
	ターゲットアドレスのエイリアスの追加	88

本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [本書について](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

本書について

このガイドでは、SMTP プロトコルを使用して Enterprise Vault サーバーに送信されたデータをアーカイブする Enterprise Vault SMTP アーカイブの設定方法を説明します。

Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

[表 1-1](#) に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。■ 管理コンソールの [ヘルプ] メニューで [Enterprise Vault のヘルプ] をクリックします。

マニュアル	コメント
導入および計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストールおよび設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。
Skype for Business のアーカイブの設定	Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。
Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類	Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。
Veritas Information Classifier を使用した分類	Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。
管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。

マニュアル	コメント
監査	Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。
バックアップと回復	システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
NSF 移行	Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

Enterprise Vault SMTP アーカイブの概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault SMTP アーカイブについて](#)
- [SMTP ジャーナルについて](#)
- [SMTP グループジャーナルについて](#)
- [SMTP メールボックスジャーナルについて](#)
- [SMTP アーカイブのライセンスについて](#)
- [Exchange Server または Office 365 から Enterprise Vault へのメッセージのジャーナル](#)

Enterprise Vault SMTP アーカイブについて

Enterprise Vault SMTP アーカイブを使うと、Enterprise Vault は SMTP プロトコルを使って Enterprise Vault サーバーに送信されたデータをアーカイブできます。

SMTP アーカイブの適用例は次のとおりです。

- Office 365 や Google メールなどのクラウドベースの電子メールサービスから、SMTP を介して送信されるジャーナルの電子メールをアーカイブに直接取り込みます。
- Exchange Server、Lotus Domino、Sun Mail System、Zimbra などのオンプレミスの電子メールプラットフォームから、ジャーナルの電子メールをアーカイブに直接取り込みます。
- BCC、特定時点での配布リストのメンバーシップ、ジャーナルレポート情報などのメタデータをすべて取得します。

- **Compliance Accelerator** を使用して、監視サンプリング用の追加データを提供します。
- **Discovery Accelerator** を使用して、**eDiscovery** 検索とレビュー用の追加データを提供します。
- ログファイル、ボイスメール、スキャナー、プリンタ、ファックス機など、電子メールの送信機能を備えた他のアプリケーションからデータを取り込みます。
- ジャーナルフィードからメールボックスアーカイブをポピュレートします。各ユーザーのアーカイブは、受信トレイや送信済みのアイテムを示す個人用ジャーナルを表します。
- メール対応の **Exchange** パブリックフォルダを、より拡張性に優れた共有ソリューションに置換してユーザーに提供します。

SMTP アーカイブを使って、SMTP 経由でメッセージを送信できるアプリケーションをジャーナルできます。Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されるジャーナルレポートメッセージ (P1 メッセージ) は、<http://technet.microsoft.com/library/bb331962.aspx> の記事で説明しているエンベロープジャーナルレポート形式に従う必要があります。ジャーナルレポートメッセージは Enterprise Vault が処理し、Veritas Discovery Accelerator などの eDiscovery アプリケーションを使って検索する場合に利用できます。

メモ: SMTP アーカイブでは現在、Domino サーバーがジャーナルするメッセージのジャーナルレポート情報が処理されません。

図 2-1 SMTP アーカイブ概要

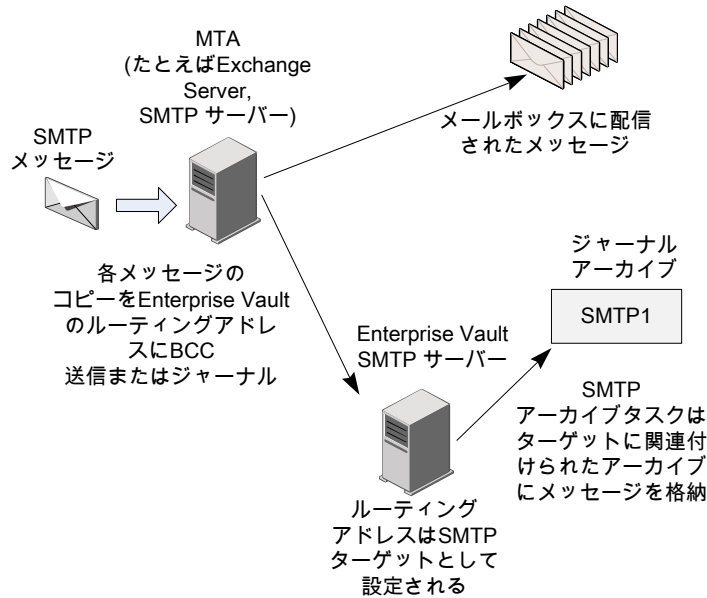


図 2-1 は簡単な SMTP ジャーナル環境の例です。

- MTA が一部のアプリケーションから SMTP メッセージを受信します。
この MTA は Exchange サーバーと SMTP メッセージを転送できる他のサーバーのいずれかになります。
- この MTA は宛先メールボックスにメッセージを送ります。
- また、この MTA は、Enterprise Vault SMTP サーバーの SMTP ルーティングアドレスにメッセージをコピーまたはジャーナルするように設定されています。ルーティングアドレスで使用されるドメインは、DNS で作成した、Enterprise Vault SMTP サーバーを参照する MX レコードエイリアスの場合があります。たとえば、`ev.example.com`。Enterprise Vault では、ルーティングアドレスを SMTP ターゲットアドレスとして設定する必要があります。
- Enterprise Vault SMTP サーバーはメッセージを受信し、X-RCPT-TO ヘッダーとしてメッセージにルーティングアドレスを追加します。
SMTP サーバーは、SMTP 保存フォルダとして割り当てたフォルダに電子メール (.eml) ファイルとしてメッセージを入れます。
- SMTP アーカイブタスクは保存フォルダのメッセージファイルを処理し、ターゲットアドレスに指定されているアーカイブにそれをアーカイブします。処理の間、ターゲットプロパティに指定されている保持カテゴリをタスクは適用し、Enterprise Vault により、ポリシーに記載されているすべての X-Header に索引を付けます。

Enterprise Vault SMTP サーバーは、Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントをホストする Enterprise Vault サーバーです。コンポーネントには、SMTP サーバーと Enterprise Vault SMTP アーカイブタスクが含まれます。表 2-2 に、SMTP アーカイブの主要なコンポーネントの概要を示します。

Enterprise Vault SMTP サーバーは、SMTP サーバー 1 台と SMTP アーカイブタスク 1 つのみをホストできます。ただし、複数の Enterprise Vault SMTP サーバーが 1 つのサイトに存在する可能性があります。SMTP アーカイブを設定するときには、Enterprise Vault SMTP サーバー設定とターゲット設定情報がサイト内のすべての Enterprise Vault SMTP サーバーで共有されます。これは、サイト内のあらゆる Enterprise Vault SMTP サーバーがサイト内のすべての SMTP ターゲットに送信されたメッセージをアーカイブできることを意味します。

負荷分散ソリューションを使ってサイトの SMTP サーバー全体で SMTP トラフィックを均等に分散できます。単純な負荷分散ソリューションでは、Enterprise Vault SMTP サーバーのそれぞれに DNS MX レコードを設定して各レコードのユーザー設定を等しく設定します。ジャーナルに SMTPjournal@example.com などの単一アドレスを使っているときに、トラフィック量が Enterprise Vault SMTP サーバーの管理能力を超える場合は、異なる Enterprise Vault ストレージサーバーでホストされるポルトストアにある複数のアーカイブにこのルーティングアドレスを関連付けるか、SMTP サーバーでアドレスの書き換えを実装することができます。いずれのソリューションを使用しても、複数の Enterprise Vault ストレージサーバーにアーカイブの負荷を分散できます。

SMTP アーカイブ設定

Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されたすべてのメッセージをアーカイブするか、選択したユーザーのメッセージのみをアーカイブするかに応じ、SMTP アーカイブを異なる方法で設定できます。表 2-1 は、実装できるさまざまなジャーナル設定の概略です。これらの設定は、関連セクションでより詳しく説明されています。

表 2-1 SMTP アーカイブの設定

SMTP アーカイブの設定	説明
SMTP ジャーナル	Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されたすべてのメッセージが 1 つまたは複数のジャーナルアーカイブに保存されます。 管理者は、グループのアーカイブにアクセス権限を追加する必要があります。 p.17 の「SMTP ジャーナルについて」を参照してください。

SMTP アーカイブの設定	説明
SMTP グループジャーナル (以前の「選択 SMTP ジャーナル」)	<p>特定の対象ユーザーまたはアドレスとの間で送受信されるメッセージのみをアーカイブするように Enterprise Vault を設定します。Enterprise Vault は、すべてのターゲットからのメッセージを同じアーカイブに格納できます。</p> <p>SMTP グループジャーナルのユーザーグループを設定するための推奨方法は SMTP プロビジョニングです。</p> <p>管理者は、グループのアーカイブにアクセス権限を追加する必要があります。</p> <p>p.19 の「SMTP グループジャーナルについて」を参照してください。</p>
SMTP メールボックスジャーナル	<p>Enterprise Vault は、特定の対象ユーザーとの間で送受信したメッセージを、そのユーザー専用のアーカイブにすべて格納します。</p> <p>SMTP メールボックスジャーナルのユーザーグループを設定するための推奨方法は SMTP プロビジョニングです。</p> <p>Active Directory の対象ユーザーの場合、プロビジョニングによって、対象ユーザーに自身のインターネットメールアーカイブへのアクセス権限が付与されます。</p> <p>p.21 の「SMTP メールボックスジャーナルについて」を参照してください。</p>
SMTP ジャーナル + SMTP グループジャーナル	<p>SMTP ジャーナルは Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されたすべてのメッセージを取得し、SMTP グループジャーナルは、特定のユーザーグループのメッセージを、グループに割り当てられている 1 つ以上のアーカイブに格納します。</p> <p>SMTP サイト設定[選択したジャーナルのアーカイブ]を使用すると、グループのメッセージの格納場所(グループのアーカイブのみ、または一般的なジャーナルアーカイブとグループのアーカイブ)を制御できます。</p> <p>管理者は、グループのアーカイブにアクセス権限を追加する必要があります。</p>

SMTP アーカイブの設定	説明
SMTP ジャーナル + SMTP メールボックスジャーナル	<p>SMTP ジャーナルは Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されたすべてのメッセージを取得し、SMTP メールボックスジャーナルは、SMTP メールボックスジャーナルユーザーのメッセージを、それぞれの個人用アーカイブに格納します。</p> <p>SMTP サイト設定[選択したジャーナルのアーカイブ]を使用すると、SMTP メールボックスジャーナルユーザーのメッセージを、ユーザーの個人用アーカイブのみに格納するか、一般的なジャーナルアーカイブと個人用アーカイブに格納するかを制御できます。</p> <p>Active Directory の対象ユーザーの場合、プロビジョニングによって、対象ユーザーに自身のインターネットメールアーカイブへのアクセス権限が付与されます。</p>

SMTP ジャーナルを、SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルとともに設定する場合は、メッセージの格納場所を決めるときにアーカイブ戦略を検討してください。アプローチの組み合わせが必要な理由を以下に示します。

- 一般的なジャーナルはデータ保護のコンプライアンスに必要で、ユーザーは自分のメッセージへのアクセス権が必要です。これらの要件を満たすには、SMTP ジャーナルと SMTP メールボックスジャーナルを組み合わせ使用し、ジャーナルと個人用アーカイブの両方にメッセージをアーカイブするように Enterprise Vault を設定します。
- 一般的なジャーナルは多くのユーザーに必要ですが、上級管理職グループのメッセージは機密情報として別個に扱う必要があります。これらの要件を満たすには、SMTP ジャーナルと SMTP グループジャーナルを組み合わせる方法が適切です。上級管理職のメッセージをグループアーカイブにのみ格納するように Enterprise Vault を設定します。それ以外のすべてのメッセージは、一般的なジャーナルアーカイブに格納されます。機密性を維持するため、必要なアクセス権限をグループのアーカイブに設定できます。

SMTP グループジャーナルと SMTP メールボックスジャーナルを使用することで、メッセージの複製を複数のアーカイブに格納できます。Enterprise Vault は、ボルトストア設定で許可されるように単一インスタンスストレージを実装します。

同じアーカイブ先を持つ複数のターゲットアドレスがメッセージに含まれていて、そのターゲットアドレスに同じ保持カテゴリとポリシーが適用される場合、アーカイブにはメッセージのコピーが 1 つのみ格納されます。

SMTP アーカイブコンポーネント

SMTP アーカイブを実装するには、Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントと Enterprise Vault サーバーコンポーネントを SMTP アーカイブを実行するコンピュータにインストールします。表 2-2 に、SMTP アーカイブの主要なコンポーネントの概要を示

します。Enterprise Vault 管理コンソールまたは Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを使って SMTP アーカイブを設定できます。

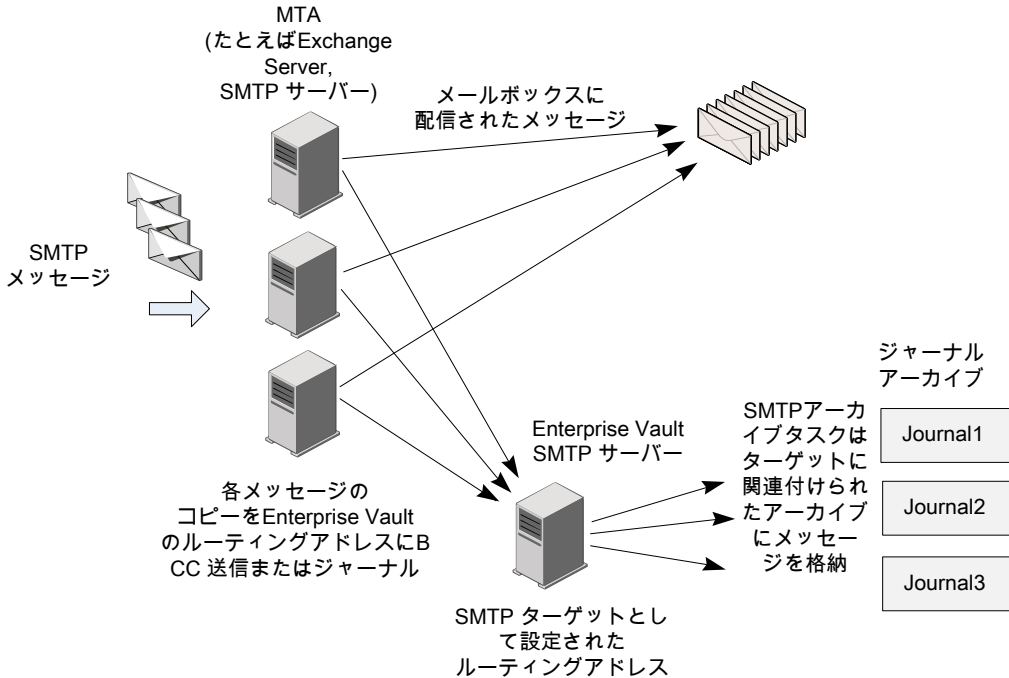
表 2-2 SMTP アーカイブコンポーネントの概要

コンポーネント	説明
Enterprise Vault SMTP サーバー	<p>SMTP サーバーは Windows サービスの Enterprise Vault SMTP サービスとして実装されます。このサービスは Windows サービスコンソールに表示されますが、Enterprise Vault 管理コンソールには表示されません。</p> <p>SMTP サーバーは SMTP 接続を管理し、Exchange Server や SMTP サーバーなどの Message Transfer Agent (MTA) を中継して Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されたメッセージを受信します。Enterprise Vault SMTP サーバーは、メッセージを .eml ファイルとして SMTP 保存フォルダに保存します。</p> <p>Enterprise Vault SMTP サーバーは SMTP サーバーを 1 つのみホストできます。</p>
SMTP アーカイブタスク	<p>SMTP アーカイブタスクは、次のように保存フォルダの電子メールファイル进行处理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ SMTP ターゲットアドレスのメッセージヘッダーをチェックします。 ■ 設定済みのポリシーと保持を適用し、アーカイブにメッセージを格納します。 ■ メッセージがアーカイブされたら、保存フォルダからファイルを削除します。
SMTP プロビジョニングタスク	<p>SMTP プロビジョニングタスクは、プロビジョニンググループのメンバー进行处理します。このタスクは、プロビジョニンググループのユーザーとアドレス用の SMTP ターゲットを自動的に作成し、同じポリシーと保持をグループ内のすべてのメンバーに適用します。</p> <p>SMTP メールボックスジャーナルの場合は、プロビジョニンググループのメンバーごとに、インターネットメールアーカイブを自動的に作成します。グループメンバーのインターネットメールアーカイブがすでにある場合は、アーカイブを SMTP ターゲットにリンクします。</p>
SMTP 保存フォルダ	<p>SMTP 保存フォルダは、SMTP アーカイブタスクに割り当てられたローカルフォルダです。フォルダの場所は、SMTP アーカイブタスクのプロパティにあります。Enterprise Vault SMTP サーバーは、アーカイブタスク进行处理するためにメッセージをフォルダに入れます。</p> <p>アーカイブが失敗したアーカイブタスクのメッセージは保存フォルダから自動的に削除されません。失敗したメッセージは [Failed] サブフォルダに置かれます。</p>

コンポーネント	説明
SMTP ポリシー	SMTP ポリシーは SMTP ターゲットアドレスに割り当てられます。このポリシーにより、ターゲットアドレスを含むメッセージがアーカイブされるとき、SMTP アーカイブタスクがジャーナルレポートと X-Header を管理するしくみが決まります。
手動ターゲット	<p>手動ターゲットとは、自分で個別に追加する SMTP ターゲットアドレスのことです。たとえば、SMTP ルーティングアドレスを手動ターゲットとして追加します。</p> <p>Enterprise Vault 12.3 より前のバージョンでは、SMTP ターゲットアドレスはすべて手動ターゲットとして追加されました。Enterprise Vault 12.3 以降では、ルーティングアドレス以外のターゲットアドレスは、プロビジョニンググループを使用して追加することをお勧めします。</p>
SMTP プロビジョニンググループ	SMTP プロビジョニンググループを使用すると、SMTP グループジャーナルおよび SMTP メールボックスジャーナルの多数の SMTP ターゲットを容易に作成および管理できます。SMTP プロビジョニングタスクは、プロビジョニンググループを処理します。
SMTP アーカイブ	<p>SMTP アーカイブは、SMTP ジャーナルと SMTP グループジャーナルに使用できるジャーナルタイプのアーカイブです。新しい SMTP ターゲットまたは新しい SMTP グループジャーナルのプロビジョニンググループウィザードでアーカイブを作成する場合は、SMTP アーカイブのみ作成できます。</p> <p>ただし、SMTP ジャーナルおよび SMTP グループジャーナルのターゲットに既存のアーカイブを選択した場合、サポートされるアーカイブの種類は、SMTP、共有、Exchange ジャーナル、および Domino ジャーナルです。</p>

SMTP ジャーナルについて

図 2-2 SMTP ジャーナルの例



通常、組織内で、SMTP メッセージは 1 つ以上の MTA によってユーザーのメールボックスに配信されます。MTA は通常、Exchange サーバーまたは SMTP サーバーです。Enterprise Vault SMTP ルーティングアドレス (例: journal1@ev.example.com) に各メッセージのコピーをジャーナルまたは BCC 配信するようにこれらの MTA を設定します。

Enterprise Vault では、ルーティングアドレスを手動の SMTP ターゲットとして設定し、各ターゲットアドレスを 1 つ以上のアーカイブと関連付けます。手動ターゲットのプロパティで、ターゲットアドレスのアーカイブが有効になっていることを確認してください。[この SMTP アドレスで送信または受信したメッセージをアーカイブする] チェックボックスは、ターゲットアドレスのアーカイブを有効にするために選択する必要があります。新しい手動ターゲットを追加すると、デフォルトでチェックボックスにチェックマークが付きます。ルーティングアドレスを追加するのに、SMTP プロビジョニンググループは使用できないことに注意してください。

Enterprise Vault SMTP サーバーは、着信メッセージ内の受信アドレスが SMTP ターゲットであることを確認し、このルーティングアドレスをメッセージに X-RCPT-TO ヘッダー

として追加します。次に、SMTP サーバーはメッセージを .eml ファイルとして SMTP 保存フォルダに置きます。

SMTP アーカイブタスクは、保存フォルダにあるメッセージファイルを処理します。ターゲットアドレスのアーカイブを有効にしたため、このタスクはターゲットルーティングアドレスに関連付けられているアーカイブのいずれかにメッセージを保存します。ジャーナルアーカイブに使用できるアーカイブの種類は、SMTP、共有、Exchange ジャーナル、または Domino ジャーナルのアーカイブです。SMTP アーカイブなど、フォルダが含まれているアーカイブの種類では、SMTP アーカイブタスクはすべてのメッセージを受信トレイに格納します。共有アーカイブや Exchange ジャーナルアーカイブなどの他のジャーナルアーカイブの種類には、フォルダが含まれません。これらのアーカイブでは、タスクはすべてのメッセージをアーカイブのルートに格納します。

SMTP ジャーナルの SMTP アーカイブタスクでは、保存フォルダ内にある各メッセージの X-RCPT-TO フィールドのみを診断する必要があります。SMTP サイトの詳細設定、[選択ジャーナルアーカイブ]により、各メッセージのすべての送信者と受信者フィールド (X-RCPT-TO、To、CC、BCC、From、Sender) を検索するようにアーカイブタスクを構成します。SMTP ジャーナルを他の種類の SMTP アーカイブと組み合わせて使用していない場合は、このサイトの詳細設定をデフォルト値の [非選択] に設定してください。これにより、パフォーマンスが最適化されます。

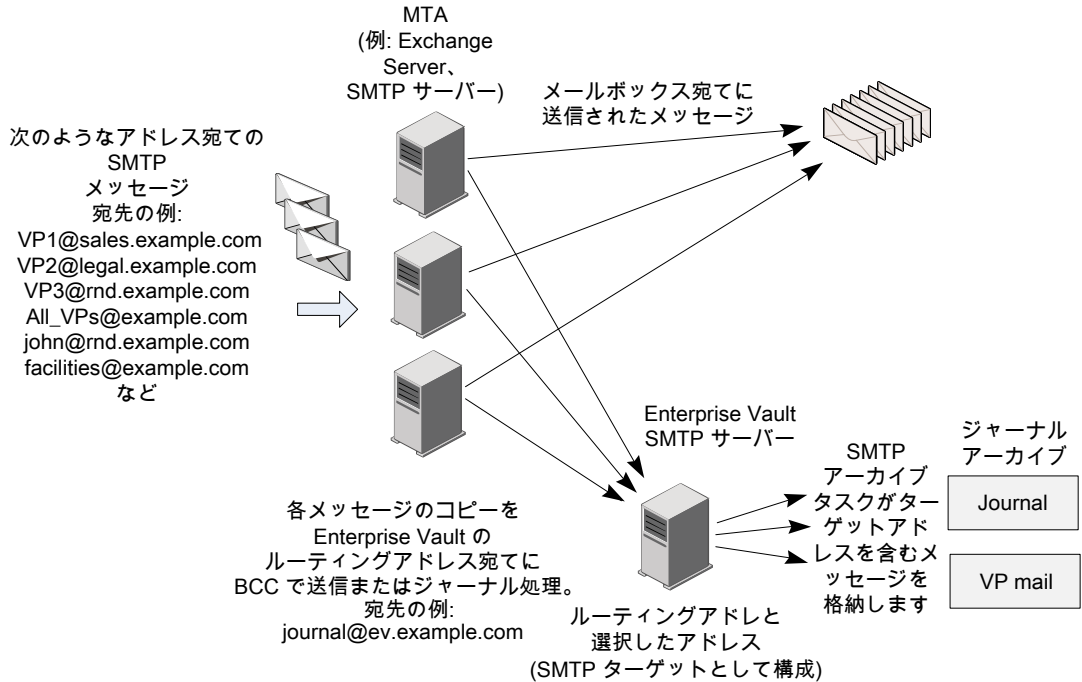
図 2-2 に、1 台の Enterprise Vault SMTP サーバーを備えた単純な環境を示します (本稼働環境には通常、複数の Enterprise Vault SMTP サーバーが含まれています。) ジャーナルするメッセージが大規模になることがあるため、複数の Enterprise Vault ストレージサーバーでアーカイブ負荷を分散することが推奨されます。異なるボルトストアで複数のジャーナルアーカイブを作成することによってこれを実行できます。異なる Enterprise Vault ストレージサービスで、各ボルトストアを管理してください。単一の SMTP ルーティングアドレスを使用する場合は、ルーティングアドレスを、別々の Enterprise Vault ストレージサーバーでホストされるボルトストアにある複数のアーカイブに関連付けることをお勧めします。Enterprise Vault が負荷分散を自動的に実行して、アーカイブの負荷を複数の Enterprise Vault ストレージサーバーに分散します。または、SMTP サーバーでターゲットアドレスの書き換えを実装できます。

中継 MTA が Exchange Server である場合は、ジャーナルルールを作成して、Enterprise Vault SMTP サーバーの適切なルーティングアドレスを選択できます。

p.23 の「[Exchange Server または Office 365 から Enterprise Vault へのメッセージのジャーナル](#)」を参照してください。

SMTP グループジャーナルについて

図 2-3 SMTP グループジャーナルの例



メモ: SMTP グループジャーナルは、以前は「選択 SMTP ジャーナル」と呼ばれていました。

特定のアドレスとの間で送受信されるメッセージのみがアーカイブされるようにするには、SMTP グループジャーナルを実装できます。Enterprise Vault は、すべてのメッセージを同じアーカイブまたは複数の異なるアーカイブに格納できます。たとえば、図 2-3 では、example.com のすべての上級管理職に対して送受信されるメッセージが個別にアーカイブされます。VP1、VP2、VP3 に対して送受信されるメッセージは、VP mail というアーカイブに格納されます。これらの管理職のアドレスは SMTP ターゲットとして追加され、アーカイブは有効になります。john@rnd.example.com と facilities@example.com のアドレスは、SMTP ターゲットとしては設定されません。

アドレス All_VPs@example.com は、社内のすべての上級管理職を含む配布リスト用の SMTP アドレスです。Enterprise Vault が、選択したターゲットアドレスを配布リストで見つけるには、ハブトランスポートサーバーがジャーナルメッセージで配布リストを展開す

する必要があります。この処理はメッセージを Enterprise Vault SMTP サーバーに送信する前に実行する必要があります。

SMTP ジャーナルの場合は、中継の MTA の BCC または Enterprise Vault SMTP ルートアドレスに対するすべてのメッセージのジャーナルコピーです。Enterprise Vault SMTP サーバーは、ルーティングアドレスをターゲットアドレスとして認識し、SMTP 保存フォルダにメッセージを置きます。続いて、SMTP アーカイブタスクは、保存フォルダ内のメッセージを処理し、ターゲットの設定に基づいてアーカイブします。

SMTP グループジャーナルのターゲットの作成および保守を簡素化するには、ターゲットとして追加するユーザー用のプロビジョニンググループを作成することをお勧めします。対象ユーザーのグループごとに異なるプロビジョニンググループを作成できます。プロビジョニンググループを作成する際は、そのグループ用のアーカイブを選択します。

Enterprise Vault は、グループに割り当てられたアーカイブ間で、保持設定の整合性を自動的に保守します。

SMTP ジャーナルと SMTP グループジャーナルの両方を実装している場合は、SMTP サイトの詳細設定[選択したジャーナルのアーカイブ]を使用して、メッセージの格納場所を制御できます。対象ユーザーのメッセージは、SMTP ジャーナルアーカイブと SMTP グループジャーナルアーカイブの両方にアーカイブすることも、SMTP グループジャーナルアーカイブにのみアーカイブすることもできます。

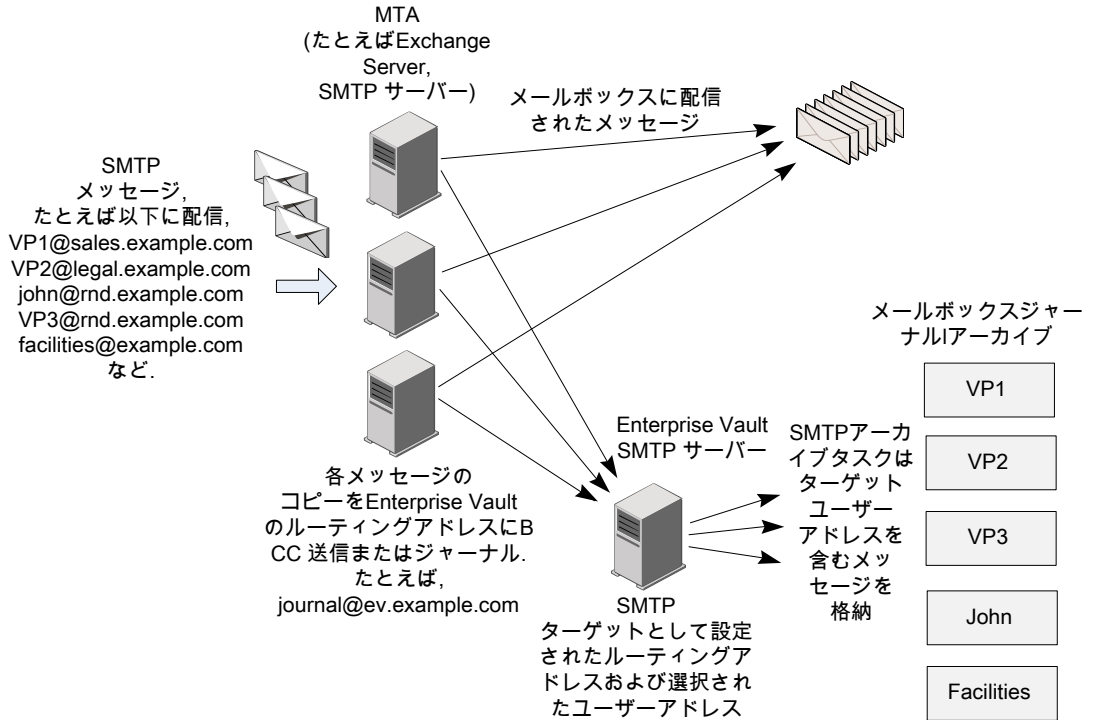
p.75 の「SMTP サイト設定[選択したジャーナルのアーカイブ]の設定」を参照してください。

SMTP グループジャーナルに使用できるアーカイブの種類は、SMTP、共有、Exchange ジャーナル、または Domino ジャーナルのアーカイブです。SMTP アーカイブなど、フォルダが含まれているアーカイブの種類では、SMTP アーカイブタスクはメッセージを受信トレイに格納します。共有アーカイブや Exchange ジャーナルアーカイブなどの他のジャーナルアーカイブの種類には、フォルダが含まれません。これらのアーカイブでは、タスクはメッセージをアーカイブのルートに格納します。SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループにアーカイブを作成し、処理の一環として新しい SMTP アーカイブを作成した場合、Enterprise Vault は SMTP アーカイブを作成します。

1 つのメッセージにターゲット電子メールアドレスが複数含まれている場合、メッセージの 1 つのコピーが複数のアーカイブに格納されることがあります。Enterprise Vault は、ポルトストア設定で許可されるように単一インスタンスストレージを実装します。

SMTP メールボックスジャーナルについて

図 2-4 SMTP メールボックスジャーナルの例



Enterprise Vault で、特定の対象ユーザーとの間で送受信されたすべてのメッセージがユーザー専用のアーカイブに格納されるようにするには、SMTP メールボックスジャーナルを実装できます。たとえば、図 2-4 では、VP1 や VP2 などに対して送受信されるメッセージは、これらのアドレス専用の別々のアーカイブに格納されます。ユーザー、VP1、VP2 などに関するアドレスは、SMTP ターゲットアドレスとして追加され、アーカイブが有効になります。

SMTP メールボックスジャーナルのユーザーを設定するには、SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループを作成することをお勧めします。プロビジョニングでは、ユーザーごとにターゲットが作成され、プロビジョニンググループのポリシー設定と保持設定が適用されます。プロビジョニングでは、各ユーザーのインターネットメールアーカイブが自動的に作成されるか、既存のインターネットメールアーカイブにリンクされます。プロビジョニングでサポートされるのは、SMTP メールボックスジャーナルのインターネットメールアーカイブのみです。

必要に応じて、SMTP メールボックスジャーナルに手動ターゲットを作成できます。

Exchange メールボックスアーカイブとインターネットメールアーカイブは、手動の SMTP メールボックスジャーナルターゲットについてサポートされます。

受信者フィールドにターゲットアドレスが含まれるメッセージは、アーカイブの受信トレイに格納されます。送信者や送信元のフィールドでターゲットアドレスが見つかった場合は、メッセージを送信済みアイテムのフォルダに格納します。ターゲットアドレスがメッセージの送信者と受信者両方の場合は、メッセージを受信ボックスと送信済みアイテムのフォルダの両方に格納します。

SMTP メールボックスジャーナルでは通常、管理するターゲットアドレスとアーカイブが多くなります。SMTP グループジャーナルの場合より多いメッセージのコピーがアーカイブされる可能性があります。例として、**user1** と **user2** の SMTP ターゲットアドレスを含むメッセージが 1 つあるとします。SMTP グループジャーナルでは、**user1** と **user2** のアドレスは同じジャーナルアーカイブに関連付けられます。そのため、メッセージのコピーは 1 つしか格納されません。SMTP メールボックスジャーナルでは、**user1** と **user2** のアドレスは別々のアーカイブに関連付けられます。そのため、メッセージのコピーが 2 つ (それぞれのアーカイブに 1 つ) 格納されます。可能な場合、Enterprise Vault は SMTP メッセージの複数のコピーをアーカイブ化するときに単一インスタンスストレージを使用します。

SMTP ジャーナルは、SMTP メールボックスジャーナルとともに設定できます。SMTP サイトの詳細設定[選択したジャーナルのアーカイブ]が[包含]に設定されている場合、Enterprise Vault は、対象ユーザーのメッセージを、対象ユーザーに割り当てられているアーカイブとルーティングアドレスに割り当てられているジャーナルアーカイブに格納します。設定値が[除外]の場合、Enterprise Vault は、対象ユーザーのメッセージをユーザーのアーカイブにのみ格納します。

特定のメールボックスアドレスで送受信するすべてのメールを取り込むには、メッセージを Enterprise Vault SMTP サーバーに送信する前に、ハブトランスポートサーバーがメッセージの配布リストを展開することが重要です。

SMTP アーカイブのライセンスについて

SMTP アーカイブを実行する各 Enterprise Vault サーバーに SMTP アーカイブライセンス (EVSMTPArchiving) をインストールする必要があります。SMTP メールボックスジャーナルを実装する場合は、Enterprise Vault SMTP サーバーに EVSMTPArchiving ライセンスと EVArchive ライセンスの両方をインストールする必要があります。有効なライセンスがインストールされていない場合、Enterprise Vault は SMTP ターゲットのデータをアーカイブできません。

ライセンスについて詳しくは、『インストール/設定』を参照してください。

Exchange Server または Office 365 から Enterprise Vault へのメッセージのジャーナル

Enterprise Vault Exchange ジャーナルアーカイブの代替として、Enterprise Vault SMTP アーカイブを利用し、Exchange サーバーからジャーナルメッセージを保存できます。SMTP アーカイブを使用して Office 365 からジャーナルメッセージを保存することもできます。メッセージを Enterprise Vault にジャーナルするように Exchange Server または Office 365 を設定する方法について詳しくは、『[Setting up Exchange Server and Office 365 for Enterprise Vault SMTP Archiving](#)』を参照してください。

Exchange ジャーナルメッセージを格納するための SMTP アーカイブの使用について

SMTP アーカイブを使用して Exchange サーバーからジャーナルされたメッセージを格納する場合、SMTP アーカイブに追加して Enterprise Vault Exchange ジャーナルアーカイブを設定する必要はありません。

SMTP アーカイブの場合、SMTP アドレスにメッセージをジャーナルするように Exchange サーバーを設定できます。

Exchange データベースジャーナルとトランスポートルールジャーナルのいずれかを利用し、Exchange データベースのユーザーのサブセットのメールをアーカイブできます。トランスポートルールジャーナルは Exchange Enterprise CAL を必要とします。

- データベースジャーナルを使う場合は、特定の Exchange データベースのすべてのユーザーを Enterprise Vault にジャーナルするように Exchange を設定できます。
- トランスポートルールジャーナルを使用する場合、Exchange ジャーナルルールを作成し、Enterprise Vault にジャーナルされるユーザーを選択できます。

代わりに、Exchange データベースジャーナルを使い、選択されたメールボックスのメッセージをアーカイブする場合、Enterprise Vault SMTP アーカイブサーバーにジャーナルするように設定されているデータベースにメールボックスを移動できます。

SMTP ジャーナルでは、1 つまたは複数のルーティングアドレスを設定できます。各ルーティングアドレスには、複数のアーカイブを割り当てることができます。パフォーマンスを最適化するためには、アーカイブを複数の Enterprise Vault ストレージサーバーに置く必要があります。Enterprise Vault は、ルーティングアドレスに割り当てられているアーカイブの間で自動的に負荷を分散します。Exchange トランスポートルールジャーナルのルールを使用すれば、適切な対象ルーティングアドレスにメッセージを送信できます。

p.61 の「[アーカイブの負荷を複数のサーバー間で分散するための複数のアーカイブの割り当て](#)」を参照してください。

SMTP アーカイブは、Outlook リッチ テキスト形式としても知られている TNEF (Transport Neutral Encapsulation Format) のメッセージをサポートしません。Exchange Server で Enterprise Vault に送信されるメッセージは HTML またはプレーンテキスト形式である必要があります。

SMTP アーカイブのインストール

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントのインストールについて](#)
- [レポート](#)
- [監視](#)

Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントのインストールについて

SMTP アーカイブを実行する各サーバーに、少なくとも Enterprise Vault サービスと SMTP アーカイブコンポーネントをインストールする必要があります。

Enterprise Vault SMTP サーバーの必須ソフトウェアと設定についてと、Enterprise Vault のインストール、構成、初回設定の実行方法の詳しい手順については、「インストールと設定」を参照してください。

Enterprise Vault インストールプログラムは SMTP アーカイブコンポーネントをインストールするときに、SMTP サーバーをインストールします。SMTP サーバーは Windows サービスの Enterprise Vault サービスとして実装されます。このサービスは Windows サービスコンソールに表示されますが、Enterprise Vault Administration Console には表示されません。

Enterprise Vault の初回設定が完了したら、このガイドの説明に従って SMTP アーカイブ機能を設定できます。

既存の Enterprise Vault サーバーに Enterprise Vault SMTP コンポーネントをインストールする場合は、既存のボルトストアとアーカイブを使うか、または SMTP コンテンツ専

用のボルトストアとアーカイブを作成します。Enterprise Vault は、ボルトストア設定で許可されるように単一インスタンスストレージを実装します。

p.58 の「SMTP メッセージのアーカイブの設定」を参照してください。

Enterprise Vault SMTP アーカイブを使用して Exchange サーバーからジャーナルされたメッセージを格納する場合、SMTP アーカイブに加え、Enterprise Vault Exchange ジャーナルアーカイブを設定する必要はありません。

p.23 の「Exchange Server または Office 365 から Enterprise Vault へのメッセージのジャーナル」を参照してください。

レポート

SMTP アーカイブタスクは、フォルダ

`Enterprise_Vault_installation_folder\Reports\SMTP\SMTP_task_name` で概略レポートとエラーログレポートを生成します。

SMTP プロビジョニングタスクは、実行が終了するごとに、

`Enterprise_Vault_installation_folder\Reports\SMTP Provisioning` フォルダに概略レポートを生成します。

SMTP アーカイブタスクのプロパティおよび SMTP プロビジョニングタスクのプロパティにある[レポート]タブで、レポートオプションを設定できます。

SMTP アーカイブにより詳しい利用レポートを生成する場合、Enterprise Vault Reporting コンポーネントをインストールし、設定する必要があります。Enterprise Vault Reporting では、[コンテンツプロバイダのライセンスと使用状況の概略レポート]という名前のレポートに、SMTP アーカイブを利用してアーカイブされたデータの情報が含まれます。

監視

SMTP アーカイブコンポーネントの監視は、Enterprise Vault によってサポートされる自動監視メカニズムに含まれます。

- パフォーマンス監視。[サイトプロパティ]の[監視]タブで、SMTP アーカイブコンポーネントのパフォーマンス監視を有効にできます。監視対象のアイテムがしきい値に達すると、メッセージがアプリケーションイベントログに記録され、Enterprise Vault システムの[状態]に警告が生成されます。
- Microsoft System Center Operations Manager (SCOM). 提供される Enterprise Vault 管理パックにより、SMTP アーカイブの運用と性能を監察できます。

Enterprise Vault の監視について詳しくは、Veritas サポート Web サイトで次の記事を参照してください。https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100015240

SMTP アーカイブの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [SMTP アーカイブを設定する手順](#)
- [構成の計画](#)
- [サイトの Enterprise Vault SMTP サーバーの設定](#)
- [SMTP アーカイブタスクと保存フォルダの追加](#)
- [保持カテゴリと保持計画の設定](#)
- [SMTP ポリシーの作成](#)
- [SMTP メッセージのアーカイブの設定](#)
- [SMTP ルーティングアドレスの追加](#)
- [SMTP ジャーナルの設定の確認](#)
- [Compliance Accelerator の追加設定](#)

SMTP アーカイブを設定する手順

[表 4-1](#) は SMTP アーカイブの設定に必要なタスクの概要です。タスクの一部は、Enterprise Vault によって SMTP 設定ウィザードで自動的に実行するか、手動で実行できます。タスクの詳細は、セクション内の説明、または表の[説明]列にある参照先セクションを参照してください。

SMTP アーカイブのどの種類を設定する際も (SMTP ジャーナル、SMTP グループジャーナル、および SMTP メールボックスジャーナル)、手順 1 から手順 7 を実行する必要があります。

Compliance Accelerator のサンプリングに SMTP メッセージを含める場合は、手順 8 が必要です。

手順 9 は、SMTP ジャーナルの設定を完成します。

SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルを設定する場合は、手順 10 と手順 11 が必要です。

SMTP アーカイブを設定するには、ボルトサービスアカウント、または SMTP 管理者ロールに割り当てられているアカウントを使ってログインする必要があります。SMTP 管理者ロールには、メッセージ管理者ロールとメイン管理者ロールにも含まれます。

詳しくは『管理者ガイド』の「役割ベースの管理」を参照してください。

表 4-1 SMTP アーカイブを設定する手順

手順	作業	関連情報
手順 1	SMTP アーカイブ環境を計画します。 設定プロセスを開始する前に、SMTP アーカイブ環境を細かく計画することを強くお勧めします。反対側で参照されるセクションに、重要な考慮事項とベストプラクティスのヒントの一覧を示します。	p.29 の「 構成の計画 」を参照してください。
手順 2	サイト内のすべての Enterprise Vault SMTP サーバーを設定します。	p.34 の「 サイトの Enterprise Vault SMTP サーバーの設定 」を参照してください。
手順 3	SMTP アーカイブタスクを作成し、SMTP 保存フォルダを設定します。 SMTP アーカイブタスクは、反対側のセクションの説明に従って手動で追加するか、SMTP ルーティングアドレスの初回作成時に自動的に追加されるように設定できます。	p.42 の「 SMTP アーカイブタスクと保存フォルダの追加 」を参照してください。
手順 4	適切な保持カテゴリを設定します。	p.46 の「 保持カテゴリと保持計画の設定 」を参照してください。
手順 5	SMTP ポリシーを作成します。	p.51 の「 SMTP ポリシーの作成 」を参照してください。

手順	作業	関連情報
手順 6	<p>SMTP ジャーナルまたは SMTP グループジャーナルの SMTP アーカイブ以外のアーカイブを使用する場合は、ターゲットアドレスまたはプロビジョニンググループを設定する前にこれらを作成します。</p> <p>SMTP ジャーナルの場合は、ルーティングアドレスを作成するときに、新規 SMTP ターゲットウィザードで新しい SMTP アーカイブを作成できます。または、別の種類のアーカイブを先に作成し、ウィザードでそれを選択することもできます。</p> <p>SMTP グループジャーナルの場合も同様に、プロビジョニンググループウィザードで SMTP アーカイブを作成するか、先に別の種類のアーカイブを作成できます。</p> <p>SMTP メールボックスジャーナルの場合は、プロビジョニングタスクによって、SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループの各メンバーにインターネットメールアーカイブが割り当てられます。SMTP アドレス用のインターネットメールアーカイブがすでにある場合は、そのアーカイブが SMTP ターゲットに自動的にリンクされます。ターゲットアドレス用のインターネットメールアーカイブがない場合は、プロビジョニングタスクによって、アーカイブが自動的に 1 つ作成されます。</p>	p.58 の「 SMTP メッセージのアーカイブの設定 」を参照してください。
手順 7	SMTP ルーティングアドレスを追加します。	p.61 の「 SMTP ルーティングアドレスの追加 」を参照してください。
手順 8	Compliance Accelerator を使用する場合は、内部 SMTP ドメインをサイト設定に追加します。	p.64 の「 Compliance Accelerator の追加設定 」を参照してください。
手順 9	<p>SMTP ジャーナル:</p> <p>SMTP ジャーナルを実装している場合、設定は完了しています。設定を確認することをお勧めします。</p> <p>手順 10 と 11 はスキップできます。</p>	p.63 の「 SMTP ジャーナルの設定の確認 」を参照してください。

手順	作業	関連情報
手順 10	SMTP グループジャーナルと SMTP メールボックスジャーナル: SMTP プロビジョニングタスクを作成します。 SMTP プロビジョニングタスクは、反対側のセクションの説明に従って手動で追加するか、プロビジョニンググループの初回作成時に自動的に作成されるように設定できます。	p.74 の「 SMTP プロビジョニングタスクの追加または削除 」を参照してください。
手順 11	SMTP グループジャーナルと SMTP メールボックスジャーナル: SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナル用のプロビジョニングに必要なユーザーグループを作成します。	p.65 の「 SMTP プロビジョニンググループについて 」を参照してください。

構成の計画

SMTP アーカイブを構成する前に、SMTP アーカイブ環境をどのように運用するかを明確に決めておく必要があります。このセクションでは、構成を開始する前に計画する必要がある側面を取り上げます。管理しやすい効率的な環境を構築するのに役立つ推奨事項も示します。

Enterprise Vault SMTP サーバー

- 構成する Enterprise Vault SMTP サーバーの数を検討します。
ルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループ用に複数のアーカイブを構成する場合は、ストレージサービスをホストする Enterprise Vault SMTP サーバーを複数台用意して、アーカイブを分散することを検討します。
- サイト内の Enterprise Vault SMTP サーバーへの接続を制限する場合は、接続を許可するサーバーを識別する必要があります。
- 暗号化された接続をサポートするには、有効な SSL/TLS 証明書が必要です。
- メッセージ追跡を実装するかどうかを決定します。

p.34 の「[サイトの Enterprise Vault SMTP サーバーの設定](#)」を参照してください。

ストレージの必要条件

- ボルトストアのパーティション、インデックス、SQL データベース、SMTP 保存フォルダ、およびストレージキューに必要なストレージのサイズを検討します。

サイズ決定の目安については、『[Setting up Exchange Server and Office 365 for Enterprise Vault SMTP Archiving](#)』を参照してください。

SMTP ルーティングアドレス

- SMTP の電子メールを Enterprise Vault SMTP サーバーに送信するために使用するルーティングアドレスを決定します。
- ルーティングアドレスを使用するには、SMTP メッセージを Enterprise Vault に送信する MTA を設定する必要があります。
- ハードウェアまたはソフトウェアの負荷分散ソリューションがある場合は、ルーティングアドレス宛てのメッセージを受信し、そのメッセージを Enterprise Vault SMTP サーバーに配信するようにそれを設定する必要があります。

p.17 の「[SMTP ジャーナルについて](#)」を参照してください。

p.19 の「[SMTP グループジャーナルについて](#)」を参照してください。

p.23 の「[Exchange Server または Office 365 から Enterprise Vault へのメッセージのジャーナル](#)」を参照してください。

設定する SMTP ジャーナルの種類

- 実装するジャーナルの種類を決定します。
 - SMTP ジャーナル
 - SMTP グループジャーナル
 - SMTP メールボックスジャーナル
 - SMTP ジャーナルおよび SMTP グループジャーナル
 - SMTP ジャーナルおよび SMTP メールボックスジャーナル
- SMTP サイト設定[選択したジャーナルのアーカイブ]に設定する値を検討します。プロビジョニンググループを最初に追加する際、Enterprise Vault はこの設定の値を[包含]に自動的に変更します。

その他のヒント:

- SMTP ジャーナルに、SMTP メールボックスジャーナルまたは SMTP グループジャーナルを実装する場合は、一般的な SMTP ジャーナルアーカイブに個人用電子メールを送信しないことを希望するユーザーがいるかどうかを確認します。そのようなユーザーがいる場合は、SMTP サイト設定[選択したジャーナルのアーカイブ]に、値[除外]を使用します。

p.12 の「[SMTP アーカイブ設定](#)」を参照してください。

p.75 の「[SMTP サイト設定\[選択したジャーナルのアーカイブ\]の設定](#)」を参照してください。

SMTP グループジャーナルおよび SMTP メールボックスジャーナルのプロビジョニンググループ

SMTP グループジャーナルおよび SMTP メールボックスジャーナルを実装する場合は、プロビジョニンググループを使用して対象ユーザーを設定することを強くお勧めします。これにより、設定プロセスが簡素化されるうえ、SMTP アーカイブ設定全体を通じて保持の一貫性が保たれます。

- プロビジョニンググループを決定するには、保持設定とポリシー設定の要件が同じユーザーをグループ化します。
- グループが大きい場合は、アーカイブから除外するユーザーや、異なる設定でプロビジョニングされたユーザーを特定します。その後、これらのユーザーをグループ化して、さらに小さいプロビジョニンググループを作成します。
- Enterprise Vault がグループを処理する順序を検討します。
グループは、リストの上から下の順に処理されます。複数のプロビジョニンググループに属するユーザーは、最初に処理されるプロビジョニンググループでのみプロビジョニングされます。
プロビジョニンググループの順序を決定する際は、最も特化されたグループをリストの最上位に置き、最も一般的なグループを最下位に置きます。

その他のヒント:

- SMTP グループジャーナルと SMTP メールボックスジャーナルに、同じ対象ユーザーをプロビジョニングすることはできません。
- アーカイブの対象外とするユーザーを含む、アーカイブを無効にしたプロビジョニンググループを作成することができます。
- ターゲット設定[通常の電子メールアドレスのみをターゲットにする]は、Active Directory ユーザーのすべての SMTP アドレスについてターゲットを作成するかどうかを定義します。複数サイトに属する対象ユーザーがいる場合は、それらの対象ユーザーに対するこの設定がすべてのサイトで一貫していることを確認します。
- Active Directory 対象ユーザーを追加する場合は必ず[電子メールアドレス]以外のいずれかのメニューオプションを使用することをお勧めします。
Active Directory アカウントに関連付けられていないユーザーのターゲット SMTP アドレスをプロビジョニンググループに追加するには、[電子メールアドレス]オプションを使用します。たとえば、このオプションを使用して、組織外のユーザーをグループに追加できます。
- 手動で追加されたターゲットは、プロビジョニングされたターゲットより優先されます。ターゲットがプロビジョニンググループと手動ターゲットリストの両方に属する場合は、ユーザーがプロビジョニングされる前に、手動ターゲットを削除する必要があります。

p.65 の「SMTP プロビジョニンググループについて」を参照してください。

アーカイブ

使用するアーカイブの種類と作成方法を検討します。

- **SMTP ジャーナルおよび SMTP グループジャーナル。**SMTP ジャーナルのターゲットルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループには複数のアーカイブを割り当てることができます。新しい SMTP アーカイブを使用する場合は、これらをウィザードで作成し、ルーティングアドレスを追加したり、SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループを追加できます。さまざまな種類のジャーナルアーカイブ、または既存のアーカイブを使用する場合は、ウィザードを実行する前にこれらが存在することを確認する必要があります。
既存のアーカイブを選択する場合は、SMTP、共有、Exchange ジャーナル、Domino ジャーナルのいずれかの種類のアーカイブを選択できます。

- **SMTP ジャーナルおよび SMTP グループジャーナル。**ルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループと関連付けられたアーカイブは、同じ保持設定になっている必要があります。Enterprise Vault は、これらのアーカイブの保持設定を自動的に管理します。いずれかのアーカイブで保持設定が変更されると、Enterprise Vault は、ルーティングアドレスまたはプロビジョニンググループに関連付けられている他のアーカイブにも変更を反映します。そのため、ルーティングアドレスと SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループには、それぞれ別のアーカイブを使用することをお勧めします。

- **SMTP メールボックスジャーナル。**プロビジョニングでは、プロビジョニンググループに含まれる対象ユーザーごとに新しいインターネットメールアーカイブが自動的に作成されます。SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループの対象ユーザーが、IMAP プロビジョニンググループでプロビジョニングされていた場合、Enterprise Vault はこの対象ユーザーを既存のインターネットメールアーカイブにリンクします。

SMTP メールボックスジャーナルでは Exchange メールボックスアーカイブもサポートされますが、サポート対象は手動で追加された対象ユーザーのみです。インターネットメールアーカイブを使用できるのは、SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループに属する対象ユーザーのみです。

その他のヒント:

- **SMTP ジャーナルおよび SMTP グループジャーナル。**ルーティングアドレスまたはプロビジョニンググループに複数のアーカイブを割り当てると、Enterprise Vault はアーカイブの負荷を複数のサーバーに自動的に分散します。アドレスの書き換えの代わりに、この機能を使用することをお勧めします。
- 同じユーザーが IMAP (インターネットメールプロビジョニンググループ) と SMTP メールボックスジャーナルに対してプロビジョニングされた場合、IMAP と SMTP アーカイブのプロビジョニンググループは、インターネットメールアーカイブに同じ保持設定を適用する必要があります。
- 同じユーザーに対して SMTP プロビジョニングタスクとクライアントアクセスプロビジョニングタスクを実行する場合は、これらのタスクを同時に実行しないことをお勧めします。

す。一方のタスクが終了してからもう一方のタスクが開始されるように、タスクの実行スケジュールを変更してください。

p.58 の「[SMTP メッセージのアーカイブの設定](#)」を参照してください。

保持設定

プロビジョニンググループおよび手動で追加したターゲットアドレス (ルーティングアドレスなど) に使用する保持カテゴリと保持計画を決定します。

- 保持カテゴリと保持計画は新しいターゲットおよび新しいプロビジョニンググループのウィザードで作成できますが、これらは事前に計画および作成することをお勧めします。
- 保持はシンプルにします。Enterprise Vault 環境では、種類が異なるアーカイブに対し、同じ保持カテゴリと保持計画を使用するようにします。
- ルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループと関連付けられたアーカイブは、同じ保持設定になっている必要があります。Enterprise Vault は、これらのアーカイブの保持設定を自動的に管理します。いずれかのアーカイブで保持設定が変更されると、Enterprise Vault は、ルーティングアドレスまたはプロビジョニンググループに関連付けられている他のアーカイブにも変更を反映します。

その他のヒント:

- サイト内の保持カテゴリと保持計画の種類はできるだけ少なくし、一貫してそれらを適用します。Enterprise Vault は、デフォルトの保持設定を上書きするためのさまざまな方法があるという意味で柔軟性があります。保持モデルが複雑になりすぎると、期待どおりに保持が適用されない場合があります。
- 同じユーザーが IMAP (インターネットメールプロビジョニンググループ) と SMTP メールボックスジャーナルに対してプロビジョニングされた場合、IMAP と SMTP アーカイブのプロビジョニンググループは、インターネットメールアーカイブに同じ保持設定を適用する必要があります。

p.46 の「[保持カテゴリと保持計画の設定](#)」を参照してください。

SMTP ポリシー

使用する SMTP ポリシーを決定します。

- メッセージには、インデックスを設定したり、メッセージの処理方法を制御するために使用する独自の X-Header を含むものがあります。
- ターゲットまたはプロビジョニンググループのジャーナルレポートを保持するか、破棄するかを検討します。ジャーナルレポートには BCC 情報が含まれるため、エンドユーザーがアクセス権を持つアーカイブ (SMTP メールボックスジャーナルなど) にはレポートを含めないでください。

p.51 の「[SMTP ポリシーの作成](#)」を参照してください。

Compliance Accelerator の追加設定

Compliance Accelerator を使用する場合は、SMTP ターゲットで使用するどのドメインを内部として考慮するかを決定する必要があります。

p.64 の「[Compliance Accelerator の追加設定](#)」を参照してください。

サイトの Enterprise Vault SMTP サーバーの設定

Enterprise Vault の初回設定が完了したら、このセクションの説明に従って Enterprise Vault SMTP サーバーの SMTP 接続を設定します。

これらの設定は Enterprise Vault ディレクトリに格納され、サイト内の各 Enterprise Vault SMTP サーバーに伝達されます。Enterprise Vault SMTP サーバーで Enterprise Vault Admin サーバーを起動または再起動すると、その SMTP サーバーの設定がディレクトリの設定と同期します。

Enterprise Vault 管理コンソールでは、SMTP サーバー設定は[ターゲット] > [SMTP] のコンテナのプロパティにあります。

Enterprise Vault SMTP サーバーを設定するには

- 1 Enterprise Vault Administration Console をホストするコンピュータで、Vault Service アカウントまたは SMTP 管理者ロールを持つアカウントとしてログオンします。
- 2 Enterprise Vault Administration Console を開きます。
- 3 ナビゲーションペインで、サイトを展開し、[ターゲット]コンテナを展開します。
- 4 [SMTP]コンテナを右クリックし、[プロパティ]を選択します。
- 5 SMTP プロパティダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックスの初回表示時には、[設定の構成...]をクリックし、SMTP サーバー設定ウィザードを起動します。

このウィザードで、SMTP サーバーの次の設定を構成できます。

SMTP ポート	SMTP サーバーの応答準備ポート。デフォルトでは、SMTP サーバーは 25 番ポートで応答準備します。指定したポートが各 SMTP サーバーで開いていること確認してください。
最大メッセージサイズ	SMTP サーバーが受け入れる SMTP メッセージの最大サイズ。最大メッセージサイズを指定しない場合、メッセージのサイズには制限がありません。

認証

Enterprise Vault SMTP サーバーに接続するとき、MTA により使用される資格情報を定義します。

接続するホストに接続時に認証を使用させる場合、使用する必要がある資格情報を入力します。ユーザー名は **user@domain** の形式で指定します。ユーザー名を既存の電子メールアドレスまたは **Active Directory** のアカウントにする必要はありません。

デフォルトでは認証が必要です。

次のとおり平文認証を制御できます。

- 平文認証を許可しない
- TLS の有無にかかわらず常に平文認証を許可する
- TLS が有効であるときにのみ平文認証を許可する

接続のセキュリティ

次の接続のどれを許可するかを指定します。

- 暗号化された接続のみ
- 暗号化されていない接続のみ
- 暗号化された接続と暗号化されていない接続の両方

デフォルトでは、暗号化された接続だけが許可されます。

暗号化された接続をサポートするには、有効な **PFX** または **PKCS#12 (.p12)** 証明書ファイルを用意する必要があります。

p.38 の「[SSL/TLS 証明書の入手](#)」を参照してください。

このウィザードでは資格情報をインストールできます。

接続の制御

Enterprise Vault SMTP サーバーに接続できるコンピュータを制御できます。接続の制御リストにコンピュータを追加しない場合、すべてのコンピュータが Enterprise Vault SMTP サーバーに接続できます。1 つ以上のコンピュータをリストに追加する場合、リストに登録されているコンピュータだけが接続できます。

次の形式のいずれかを使用して接続するホストを指定できます。

- ホスト名
- ホスト名の接尾辞
- ホスト名のパターン
- IPv4
- CIDR 表記による IPv4 範囲
- IPv6
- CIDR 表記による IPv6 範囲

p.36 の「[接続するホストの名前または IP アドレスの入力](#)」を参照してください。

値を入力する際に使用する形式を選択します。次に、指定された形式で名前または IP アドレスを入力します。

代わりに、.csv ファイルから値をインポートできます。各ホストは *host_name_or_address, format* として新しい行でリストに登録されているはずです。

メッセージの追跡

メッセージの追跡を有効にした場合、各 SMTP サーバーが受信したメッセージの詳細が Enterprise Vault によってログに記録されます。サイト内の SMTP サーバーのリストおよび各サーバーのメッセージ追跡ログファイルの場所を確認できます。デフォルトでは、メッセージ追跡ログファイルは、各 SMTP サーバーの

Enterprise Vault プログラムフォルダにある

Reports¥SMTP¥SmtplibService フォルダに格納されます。メッセージ追跡ログファイルの場所は変更できます。メッセージ追跡ログファイルおよび DTrace ログにメッセージの件名行を含めるかどうかを構成することもできます。

p.40 の「[SMTP メッセージのメッセージ追跡の設定](#)」を参照してください。

接続するホストの名前または IP アドレスの入力

このセクションでは、SMTP サーバーに接続するホストを指定するために使用できる形式についてより詳しく説明します。

- ホスト名 接続するホストの FQDN を指定します。英数文字とハイフン「-」だけが許可されます。連続したドットは許可されません。
 ホスト名の例:

server.example.com
 server-NY.example.com

- ホスト名の接尾辞。ドメイン名を指定すると、そのドメインのすべてのホストからの接続を許可できます。
 ホスト名の接尾辞の例: example.com
 これにより、ホスト server-NY.example.com を含む、ドメイン example.com からの接続が可能になります。
- ホスト名のパターン。英数文字と文字 (0-9、a-z、*、[]) を使って、許可されるホスト名を正規表現で指定します。他の特殊文字と連続したドットは許可されません。
 ホスト名のパターンの例: server[1-2]*.example.com
 これはパターン、server1.example.com や server2-NY.example.com のような、パターンと一致する名前を持つホストからの接続を可能にします。
- IPv4. ホストの IP アドレスを IPv4 形式 *nnn.nnn.nnn.nnn* で指定します。*nnn* は 0 ~ 255 の数字です。示されているドット以外の特殊文字は許可されません。連続したドットは許可されません。
 IPv4 アドレスの例: 192.168.1.2
- CIDR 表記の IPv4 アドレス範囲。IPv4 アドレスの範囲を形式 *nnn.nnn.nnn.nnn/rr* で指定します。*nnn.nnn.nnn.nnn* はネットワークの IPv4 アドレスです。*rr* はサブネットマスクを示す 1 ~ 32 の数字であり、許可されるアドレス範囲を算定するために使用されます。追加のドット、スラッシュ、または他の特殊文字は許可されません。
 CIDR 表記の IPv4 アドレス範囲の例: 192.168.1.0/24
 この例は、範囲が 192.168.1.255 ~ 192.168.1.0 のアドレスを示しています。
- IPv6 ホストの IP アドレスを IPv6 形式 *nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn* を使用して指定します。*nnnn* には 16 進数文字 (0-9、A-F、a-f) を含めることができます。示されているコロン以外の特殊文字は許可されません。連続したコロンは許可されません。
 IPv6 アドレスの例: fd9b: cd26: df9c: fb4e: 0000:0000: 0000:0001
- CIDR 表記の IPv6 アドレス範囲。IPv6 アドレスの範囲を形式 *nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn/rrr* で指定します。
nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn:nnnn はネットワークの IPv6 アドレスです。*rrr* サブネットマスクを示す 1 ~ 128 の数字であり、許可されるアドレス範囲を算定するために使用されます。図のように、16 進数文字、コロン、スラッシュのみを使用できます。IPv6 範囲の端に 2 つの連続したコロンを使用することもできます。その他の特殊文字も許可されません。
 CIDR 表記の IPv6 アドレス範囲の例: 2001:db8:1234::/48
 この例は、範囲 2001:db8:1234:0000:0000:0000:0000:0000 ~ 2001:db8:1234:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff のアドレスを示しています。

SSL/TLS 証明書の入手

次の種類の証明書が SMTP 接続セキュリティでサポートされます。

- 信頼できるサードパーティまたは認証局 (CA) が署名する商用証明書
- Windows PKI が生成した証明書 (Microsoft 社の証明書サービス)
- プライベートの (自己署名付き) 証明書
- サブジェクトの別名 (SAN) 証明書
- ワイルドカード証明書

承認済み認証局 (CA) からの証明書を要求するのに適したツールを使うことができます。たとえば、Enterprise Vault インストールフォルダにインストールした OpenSSL を使うことができます。

要求する証明書に、ルート CA に信頼チェーンを確立するためにクライアントに必要なすべての中間証明書が含まれることを確認します。

サーバーの証明書および専用キーは PFX か PKCS#12 ファイルに置く必要があります。このファイルはパスワードを使用して暗号化する必要があります。

SSL/TLS 証明書を入手するには

- 1 サイトに SMTP サーバーが 1 つのみある場合は、手順 6 に進みます。
- 2 Enterprise Vault インストールフォルダ内にある openssl.cnf のバックアップコピーを作成します。たとえば、C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault です。
- 3 編集するために openssl.cnf を開きます。
- 4 次の行の先頭から # を削除することによって openssl.cnf の次の行のコメントを解除します。

```
# req_extensions = v3_req # The extensions to add to a certificate request
```

- 5 以下の例で示すように、`openssl.cnf` の `[v3_req]` セクションに行を追加します。サイト内のすべての SMTP サーバーを指定します。

```
[ v3_req ]
# Extensions to add to a certificate request

basicConstraints = CA:FALSE
keyUsage = nonRepudiation, digitalSignature, keyEncipherment

subjectAltName = @alt_names

[alt_names]
DNS.1 = evserver1.example.local
DNS.2 = evserver2.example.local
DNS.3 = evserver3.example.local
DNS.4 = evserver4.example.local
```

- 6 次の OpenSSL 構文を使って証明書要求とキーを作成します。

```
openssl req -config openssl.cnf -new -nodes -keyout server.key
-out server.csr
```

ここで、**server.key** は証明書キーを含むファイルの名前、**server.csr** は証明書署名要求 (CSR) を含むファイルの名前です。

組織についての情報の入力を求めるメッセージが表示されます。オプションのフィールドを空白のままにするには、ピリオドを入力します。次のフィールドがあります。

- **[Country Name]** は組織の本拠地のある国です。
- **[State or Province Name]** は組織の本拠地のある都道府県です。省略可能。
- **[Locality Name]** は組織の本拠地のある市区町村です。省略可能。
- **[Organization Name]** は組織の名前です。
- **[Organizational Unit Name]** は組織内の要求中の部門です。省略可能。
- **[Common Name]** は、MTA が SMTP 接続を作成する Enterprise Vault サーバーのエイリアスの完全修飾ドメイン名です。
- **[Email Address]** は電子メールアドレスです。省略可能。
- **[Challenge password]** は、証明書要求で送信される余分な属性です。オプション
- **[Optional company name]** は、会社の名前です。省略可能。

2 つのファイルが生成されます。CA に CSR ファイルを送信し、キーファイルを保有する必要があります。

- 7 次に、専用キーを使用して、CSR に署名します。

サイトに SMTP サーバーが 1 つのみある場合は、次のコマンドを使って CSR に署名します。

```
openssl x509 -in server.csr -out server.pem -req -signkey
server.key -days 365
```

サイトに SMTP サーバーが複数ある場合は、次のコマンドを使って CSR に署名します。

```
openssl x509 -in server.csr -out server.pem -req -signkey
server.key -days 365 -extensions v3_req -extfile openssl.cnf
```

ここで、フォルダには `server.pem` というファイルが作成されているはずです。このファイルはサーバー証明書です。

- 8 次のコマンドを使って証明書とキーを PKCS#12 (.p12) ファイルにエクスポートし、そのファイルを暗号化します。

```
openssl pkcs12 -export -in server.pem -inkey server.key -out
server.p12 -descert
```

メッセージが表示されたら、ファイルを保護するパスワードを入力します。

SMTP メッセージのメッセージ追跡の設定

Enterprise Vault の SMTP メッセージ追跡は、Enterprise Vault SMTP サービスがリモートメッセージングサーバーから受信する SMTP メッセージを追跡するのに役立ちます。サイトで SMTP メッセージ追跡を設定し、有効にするには、SMTP サーバーのプロパティにあるメッセージ追跡設定を使用します。

Enterprise Vault 管理コンソールのメッセージ追跡設定にアクセスするには、次の手順を実行します。

- [対象]を展開します。
- [SMTP]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。SMTP サーバーのプロパティウィンドウが表示されます。
- [メッセージの追跡]タブをクリックして設定を表示します。

サイトのメッセージ追跡機能を有効にすると、各 Enterprise Vault SMTP サーバーは受信したメッセージの詳細を記録します。SMTP サーバーは、メッセージ追跡ログファイルにメッセージの詳細を記録します。SMTP サーバーログファイルは、メールフロー分析、レポート作成、トラブルシューティングに使用できます。たとえば、ログファイルの内容をリレー MTA のログファイルと比較して、リレー MTA によって送信され、Enterprise Vault SMTP サーバーが受信していないメッセージを検出できます。

Enterprise Vault は毎日、新しいメッセージ追跡ログファイルを生成します。ファイルのサイズが 10 MB を超えると、Enterprise Vault は新しいログファイルを作成します。ログファ

イルの名前の形式は `EVSMTPTMessageTracking_DNSAliasName_ yyyymmdd_n.log` です。*n* は、ログファイルのサイズが 10 MB の上限を超えた場合に Enterprise Vault がログファイル名に付加する番号です。この番号は増加していきます。たとえば、`EVSMTPTMessageTracking_EV.example.com_ 20170128_1.log` のように付加されます。

メッセージ追跡ログファイルのデフォルトの場所は、Enterprise Vault プログラムフォルダの `Reports\SMTP\SMTPService` です。管理コンソールで SMTP サーバーのプロパティを編集すると、ログファイルの場所を変更できます。この方法の代わりに、`Set-EVSMTPTMessageTrackingLogLocation cmdlet` を使用することもできます。ビルディングブロック環境では、Enterprise Vault は、アクティブなサーバーのメッセージ追跡ログの場所にログファイルを作成し、ログファイルの名前にアクティブなサーバーの名前を使用します。

Enterprise Vault は、ローカルシステムアカウントとローカル管理者グループに、メッセージ追跡ログファイルが格納されたフォルダに対するフルコントロールを付与します。

サーバーにログファイルを保持する日数を設定するには、管理コンソールで SMTP サーバーのプロパティを編集するか、`Set-EVSMTPTServerSettings cmdlet` を使用します。指定された日数より古いログファイルは削除されます。

表 4-2 で、メッセージ追跡ログの属性について説明します。ログファイルの属性はカンマ区切り値 (.csv) 形式であるため、ファイルの内容をスプレッドシートに簡単にインポートできます。

表 4-2 メッセージ追跡ログの属性

属性	説明
unid	メッセージの一意の ID。この ID は、各 SMTP サーバーのメッセージに固有の ID です。
qid	SMTP メッセージキューのメッセージの ID。
msgid	メッセージのインターネットメッセージ ID。この ID は、SMTP 保存フォルダに格納されている各メッセージのメッセージヘッダーに示されます。
subject	メッセージの件名。
mta	SMTP サーバーにメッセージを送信するメッセージ転送エージェント (MTA) の名前。
size	メッセージのサイズ (バイト単位)。
sender	MTA によって処理されたメッセージの送信者の電子メールアドレス。

属性	説明
submit-time	SMTP サーバーでメッセージを受信して、SMTP 保存フォルダに格納した時間。

SMTP アーカイブタスクと保存フォルダの追加

SMTP アーカイブタスクは、このセクションの説明に従って手動で追加するか、SMTP ルーティングアドレスの初回作成時に自動的に追加されるように設定できます。

Enterprise Vault SMTP サーバーは SMTP アーカイブタスクを 1 つのみホストできます。各アーカイブタスクは、独自のローカル SMTP 保存フォルダを必要とします。アーカイブタスクの実行に使用されるアカウントには、保存フォルダに対するフルアクセス権限が必要です。

SMTP アーカイブタスクは、Enterprise Vault SMTP サーバーが SMTP 保存フォルダに置いた .eml メッセージファイルを処理します。タスクは各ファイルを調べ、ファイルがアーカイブ対象かどうかを判断します。タスクは SMTP ポリシーとターゲットの設定に従ってメッセージをアーカイブします。

ポリシーに登録されている X-Header がメッセージに含まれる場合、メッセージのアーカイブ時にそれらにインデックスが付けられます。メッセージに「X-Kvs」X-Header が含まれる場合、これらのヘッダーの値のより、ポリシーとターゲットの設定が上書きされます。

次の条件のいずれかが満たされるとき、アーカイブタスクはメッセージファイルを保存フォルダから削除します。

- タスクがメッセージを正常にアーカイブした後。
- アーカイブ対象のターゲットアドレスがメッセージに含まれない場合。これは、アーカイブ用にルーティングアドレスが有効になっていないときに、SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルで発生する場合があります。たとえば、保存フォルダ内のメッセージに、SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルのターゲットアドレスが含まれておらず、なおかつルーティングアドレスのターゲットプロパティで[この SMTP アドレスで送信または受信したメッセージをアーカイブする]が選択されていない場合です。

SMTP サービスおよび SMTP アーカイブタスクは継続的に実行されます。SMTP サービスが停止すれば、Enterprise Vault は SMTP サービス再起動を試みます。アーカイブタスクを停止した場合、SMTP サービスも停止するかどうかを確認するメッセージが表示されます。SMTP サービスを続ける場合、引き続きファイルが保存フォルダに追加されます。

保存フォルダのファイルを処理するときに、アーカイブタスクは一定の間隔でチェックポイントを実行します。タスクのプロパティの[詳細]タブでチェックポイント間隔を変更できます。

新しいサーバー上で SMTP アーカイブタスクをホストする場合は、まず、現在のサーバーからそのタスクを削除する必要があります。その後、新しいサーバーにタスクを追加できます。

SMTP アーカイブタスクを追加するには

- 1 管理コンソールを開き、Enterprise Vault[サーバー] > [サーバー] > [タスク]に移動します。
- 2 [タスク]コンテナを右クリックし、[新規]、[SMTP アーカイブタスク]の順に選択し、新しいタスクページを開きます。
- 3 SMTP アーカイブタスクの必要な情報 (SMTP 保存フォルダに適切なフォルダなど) を入力します。

SMTP アーカイブタスクを削除するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[Enterprise Vault サーバー]コンテナを探して展開します。
- 2 SMTP アーカイブタスクを削除するサーバーのコンテナを展開し、その後[タスク]コンテナをクリックします。
- 3 SMTP アーカイブタスクが実行されている場合、[SMTP アーカイブタスク]を右クリックして、[停止]をクリックします。
- 4 [SMTP アーカイブタスク]を右クリックして、ショートカットメニューで[削除]を選択します。
- 5 警告ダイアログボックスで、[はい]をクリックします。
管理コンソールからアーカイブタスクが削除されます。

SMTP 保存フォルダについて

各 SMTP アーカイブタスクには固有の保存フォルダが必要です。Enterprise Vault SMTP サービスは、アーカイブタスクを処理するために、.eml メッセージファイルをこのフォルダに入れます。

保存フォルダパスは次の条件に従う必要があります。

- フォルダはローカルドライブ上に置く必要があります。
- フォルダはウイルススキャンから除外する必要があります。保存フォルダをスキャンすると、アイテムの破損、パフォーマンスの問題、およびデータの損失が発生する可能性があります。
- フォルダには UNC パスを指定できません。
- フォルダパスで許可される最大長は 207 文字です。
- DBCS 文字と非 ANSI 文字はフォルダのパスに含めることができません。

SMTP サーバーと SMTP アーカイブタスクが実行されるアカウントには、保存フォルダへの完全アクセスを与える必要があります。このフォルダには機密なデータが含まれるため、他のアカウントがこのフォルダにアクセスしたり、アクセスを継承したりしないようにします。

保存フォルダはメッセージファイルがフォルダに置かれた時間に従って整理されます。時間は UTC 時間として指定されます。次に例を示します。

```
Mail Root (Holding folder)
  26 (day of month)
    15 (hour)
      30 (min)
        5cd6a8ba01cc51dd000000001.eml (actual email)
        6feb03d801cc2f0f000000001.eml
```

アーカイブタスクでアイテムをアーカイブできない場合は、保存フォルダ内の Failed という名前のフォルダにファイルが移動されます。Failed フォルダには、必要に応じて **day**、**hour**、**minute** のサブフォルダが作成されます。ファイルは適切な **minute** フォルダに収められます。

デフォルトでは、アーカイブタスクは、アーカイブが有効になっているターゲットアドレスを含まない保存フォルダのメッセージを削除します。**SMTP** サイト詳細設定、[受信者または一致するターゲットがないメッセージを削除する]を使用してこの動作を変更できます。[いいえ]にこのオプションを設定した場合、アーカイブが有効になっていない一致するターゲットアドレスを含まないメッセージは **NoMatchingTarget** フォルダに移動されます。**NoMatchingTarget** フォルダには、必要に応じて **day**、**hour**、**minute** のサブフォルダが作成されます。ファイルは適切な **minute** フォルダに収められます。そのような処理をレポートするには、**SMTP** サイト詳細設定[メッセージがアーカイブ化有効ターゲットを含まないときのアクションをログに記録する]を有効にします。[受信者または一致する送信先がないメッセージを削除します]オプションを[いいえ]に設定すると、保存フォルダの領域がすぐに埋まる場合があることに注意してください。

次の手順では、保存フォルダの場所の変更方法を説明します。この手順はサイトの **Enterprise Vault SMTP** サーバーが単一か複数かによって変わります。

Enterprise Vault 複数の SMTP サーバーがあるサイトで保存フォルダの場所を変更する方法

- 1 Windows サービスコンソールで、**Enterprise Vault SMTP** サービスを停止します。
SMTP サービスが停止している間は、サイト内の別の **Enterprise Vault SMTP** サーバーの **SMTP** サービスと SMTP アーカイブタスクが実行し続けて新しいアイテムを処理します。
- 2 保存フォルダにあるすべての保留ファイルが **SMTP** アーカイブタスクによって処理されるまで待ちます。
SMTP アーカイブタスクによるファイルの処理が完了した後、**Enterprise Vault Administration Console** でタスクを停止します。

- 3 SMTP アーカイブタスクのプロパティで、保存フォルダの場所を変更します。
新しい保存フォルダの場所をウイルススキャンから除外する必要があることに注意してください。
- 4 Enterprise Vault SMTP サービスを再起動します。アーカイブタスクは自動で再起動します。

単一の Enterprise Vault SMTP サーバーがあるサイトで保存フォルダの場所を変更する方法

- 1 Enterprise Vault Administration Console で、SMTP アーカイブタスクを停止します。
- 2 [SMTP サービスの停止]を選択して[はい]をクリックします。
SMTP サービスを停止すると、接続を試行するすべてのホストが拒否されます。
SMTP サービスは長時間停止しないでください。
SMTP サービスを停止しないと、このサービスは SMTP メッセージを受け入れて保存フォルダに保存し続けます。
- 3 新しい場所に既存の SMTP 保存フォルダのツリーをコピーします。
- 4 管理コンソールの SMTP 保存フォルダの場所を変更します。
新しい保存フォルダの場所をウイルススキャンから除外する必要があることに注意してください。
- 5 Enterprise Vault SMTP アーカイブタスクを開始します。タスクを開始すると Enterprise Vault は自動的に SMTP サービスを開始します。

アーカイブ済みメッセージのセーフコピーの保存

Enterprise Vault は SMTP メッセージのセーフコピーを格納するために SMTP 保存フォルダを使用しません。[はい、元の場所に保持します]のセーフコピー設定があるボルトストアに SMTP メッセージをアーカイブするとき、Enterprise Vault はセーフコピーをストレージキューに維持します。

これらのセーフコピーの十分な容量がストレージキューの場所にあることを確認する必要があります。

ストレージキューについて詳しくは『管理者ガイド』を参照してください。

タスクの概略レポート

SMTP アーカイブタスクは、フォルダ

`Enterprise Vault_installation_folder\Reports\SMTP\SMTP_task_name`で概略レポートとエラーログレポートを生成します。

アーカイブタスクのプロパティの[詳細]タブで、概略レポートを生成する間隔を変更できます。

保持カテゴリと保持計画の設定

SMTP アーカイブ環境で使用するポリシー、保持カテゴリ、および保持計画は慎重に計画することをお勧めします。ターゲットアドレスまたはプロビジョニンググループを追加するためにウィザードを実行するときに、新しいポリシー、保持カテゴリ、および保持計画を作成できます。ただし、必要なポリシーと保持設定を先に作成し、ウィザードでそれを選択することもできます。

詳しくは、『管理者ガイド』の「保持カテゴリと保持計画」を参照してください。

ルーティングアドレスに複数のアーカイブを割り当てる場合は、すべてのアーカイブで保持設定が同じであることが必要です。

p.48 の「[複数のアーカイブでのカスケード保持設定の管理](#)」を参照してください。

保持カテゴリについて

アーカイブタスクは、メッセージを格納する際に、ターゲットに対して設定した保持カテゴリを格納済みメッセージに割り当てます。保持カテゴリは、保持期間 (格納したメッセージを保持する最低期間) を定義します。

保持カテゴリのプロパティは、他の機能 (保持カテゴリを使用したアイテム削除の防止など) も提供します。

保持カテゴリの設定を変更するには、Enterprise Vault 管理コンソールで保持カテゴリのプロパティを開きます。保持カテゴリは、[ポリシー]の下の[保存と分類]コンテンツにあります。

新しい保持カテゴリを作成するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまでボルトサイト階層を展開します。
- 2 [ポリシー]、[保存と分類]の順に展開します。
- 3 [カテゴリ]を右クリックし、ショートカットメニューで[新規]、[保持カテゴリ]の順に選択します。

新規保持カテゴリウィザードが起動します。

- 4 ウィザードに従って操作します。
- 5 保持カテゴリのプロパティを表示または変更するには、右側のペインで新しい保持カテゴリをダブルクリックします。

保持計画について

保持計画を使用すると、次を定義して、アーカイブまたはアーカイブフォルダに適用できます。

- 保持カテゴリ
- 分類ポリシー
- 期限切れの際の保持カテゴリの使用法
- 保持フォルダ

保持計画を使用すると、アーカイブ済みアイテムの保持期間をより高度に制御できます。特に、保持計画では **Enterprise Vault** でアイテムをアーカイブするときに自動的に指定されたのとは異なる保持期間を指定することによって、アーカイブ済みアイテムを破棄できます。たとえば、**Enterprise Vault** で最初にスタンプが付けられた保持カテゴリではなく、保持計画に関連付けられた保持カテゴリに従って、影響を受けるアイテムが **Enterprise Vault** によって期限切れになるように保持計画を構成できます。

保持計画に割り当てる保持カテゴリや分類ポリシーを定義した後のみ、保持計画を作成することを推奨します。

保持計画を作成して 1 つ以上のアーカイブに関連付けた後に、保持計画を修正することができます。また、それらのアーカイブと計画の関連付けを解除したり、別の計画に関連付けたりすることもできます。

Enterprise Vault 管理コンソールでは、保持計画は[ポリシー]の下の[保持と分類]コンテナにあります。

新しい保持計画を作成するには

- 1 **Enterprise Vault** 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまでツリー表示を展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。
- 3 [計画]を右クリックして、[新規]をポイントして[保持計画]をクリックします。
[新しい保持計画]ウィザードが表示されます。
- 4 ウィザードのページの手順に従って次のように入力します。
 - 新しい保持計画の名前。名前は一意である必要があり、最大 40 個の英数字記号とスペース文字を含めることができます。
たとえば、保持計画の対象者がアイテムをデフォルトで永続レコードとしてマーク付けするユーザーである場合は、「**Capstone Official Plan**」という名前を付けることができます。保持計画の対象者がアイテムを一時レコードとしてマーク付けするユーザーである場合は、「**Capstone Temporary Plan**」という名前の保持計画を作成できます。
 - 計画の説明。説明は、最大 127 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。

- 必要な保持カテゴリ:たとえば、レコードタイプが永続または一時に設定されているもの。
- 必要に応じて、**Enterprise Vault** で保持計画で処理するアイテムを分類する分類機能を使用できるようにするかどうかを指定します。アイテムを分類することを選択する場合、必要な分類ポリシーを選択する必要があります。
- 影響を受けるアイテムに割り当てる有効期限設定。

複数のアーカイブでのカスケード保持設定の管理

Enterprise Vault 12.3 以降では、SMTP ジャーナルルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループに複数のアーカイブを割り当てることができます。ターゲットに割り当てられるすべてのアーカイブは、同じ保持設定である必要があります。

Enterprise Vault では、ルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループに割り当てられたアーカイブの保持設定は自動的に管理されます。プロビジョニンググループに割り当てられたアーカイブのいずれかの保持設定を変更すると、**Enterprise Vault** はその変更内容をプロビジョニンググループ内の他のアーカイブに適用します。任意のアーカイブまたはターゲットの保持設定を変更すると、**Enterprise Vault** は関連付けられたすべてのアーカイブの保持設定を更新します。このため、各ルーティングアドレスと各 SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループに異なるアーカイブを使用するか、すべてのグループに同じ保持設定を適用することをお勧めします。

SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループの場合、プロビジョニンググループの保持設定は、そのグループ内のすべてのターゲットに適用されます。SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループで、対象ユーザーのアーカイブの保持設定を変更しても、**Enterprise Vault** は、SMTP ジャーナルや SMTP グループジャーナルのように、その変更をグループ内の他のアーカイブには適用することはありません。ただし、プロビジョニングタスクは、次のプロビジョニング実行時に、プロビジョニンググループの保持設定をアーカイブに復元します。

図 4-1 複数のアーカイブに割り当てられたルーティングアドレス

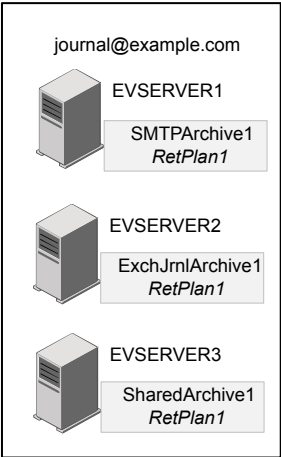


図 4-1 に示す例を考えます。たとえば、`journal@example.com` または `SMTPArchive1` の保持設定を `RetPlan2` に変更するとします。 `ExchJrnlArchive1` と `SharedArchive1` の保持設定も `RetPlan2` に変更されます。

図 4-2 共通のアーカイブに割り当てられた複数のターゲット

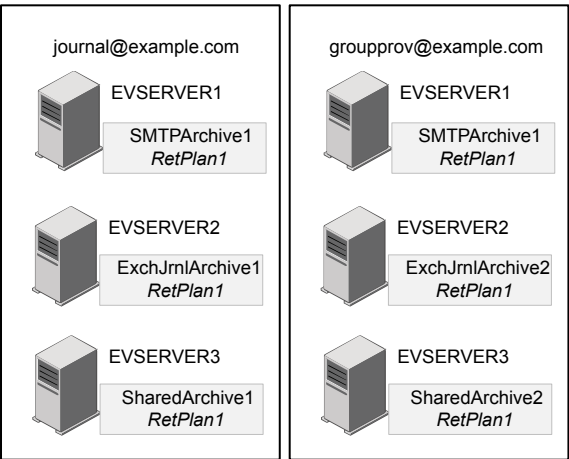


図 4-2 に示す例では、SMTPArchive1 アーカイブは `journal@example.com` と `groupprov@example.com` の両方に共通です。いずれかのターゲット、またはアーカイブのいずれかの保持設定を `ExchJrnlArchive1` に変更するとします。Enterprise Vault は、この変更を `SMTPArchive1`、`ExchJrnlArchive2`、`SharedArchive1`、`SharedArchive2` の他のすべてのアーカイブにも伝達します。

保持設定のカスケード更新は、次のシナリオで発生します。

- ルーティングアドレスを作成し、ターゲットの保持カテゴリを使うように構成したアーカイブを割り当てるときに、保持計画をそのターゲットに適用することを選択します。新しい SMTP ターゲットウィザードでは、一覧表示されたアーカイブに保持計画が適用されます。
- SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループを作成し、ターゲットの保持カテゴリを使うように構成したアーカイブを割り当てるときに、保持計画をそのグループに適用することを選択します。新しいプロビジョニンググループウィザードでは、一覧表示されたアーカイブに保持計画が適用されます。
- 保持設定を変更するには、アーカイブのプロパティを編集します。
- 保持設定を変更するには、ターゲットのプロパティを編集します。ターゲットが保持計画に関連付けられている場合、保持設定を変更するには、アーカイブのプロパティを編集する必要があることに注意してください。

保持設定のカスケード更新は、アーカイブの種類として SMTP、共有、Exchange ジャーナル、Domino ジャーナルのみに適用されます。

`Set-EVArchive`、`New-EVSMTPTarget`、`Set-EVSMTPTarget PowerShell` コマンドレットを使用して、保持設定を更新することもできます。

SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループの保持の変更について

表 4-3 は、グループまたはグループのアーカイブのいずれかの保持を更新したときに、SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループに設定されている保持がどのような影響を受けるかを示しています。

表 4-3 プロビジョニンググループに設定された有効な保持の変更

保持計画は最初にグループのアーカイブのいずれかで設定される	保持カテゴリは最初にプロビジョニンググループで設定される	管理者の操作	結果的にプロビジョニンググループに設定される保持
はい	アーカイブに保持計画が設定されると、Enterprise Vault はその計画を自動的にグループに適用します。	保持計画をアーカイブから削除します。	プロビジョニンググループは、保持計画に関連付けられた保持カテゴリを使用します。
いいえ	はい	グループのアーカイブのいずれかに保持計画を追加します。	プロビジョニンググループは、追加された保持計画を使用します。
いいえ	はい	アーカイブに保持計画を追加し、アーカイブから保持計画を削除します。	プロビジョニンググループは、最初にプロビジョニンググループに設定された保持カテゴリを使用します。
いいえ	はい	保持計画を使用するためにプロビジョニンググループを更新します。	プロビジョニンググループは、保持計画を使用します。
いいえ	はい	保持計画を使用するようにプロビジョニンググループを更新し、アーカイブから保持計画を削除します。	プロビジョニンググループは、保持計画に関連付けられた保持カテゴリを使用します。

SMTP ポリシーの作成

Enterprise Vault Administration Console で、SMTP アーカイブポリシーは[SMTP]コンテナの[ポリシー]にあります。

表 4-4はポリシープロパティで利用可能な設定のリストです。

表 4-4 SMTP ポリシーのプロパティ

プロパティ	説明
[名前]と[説明]	ポリシー名とそのアプリケーションの説明。

プロパティ	説明
X-Header	<p>SMTP メッセージで特定の X-Header にインデックス付けするように Enterprise Vault を設定する場合、X-Header をポリシーに追加する必要があります。</p> <p>また特別な Enterprise Vault X-Header があります。それを利用してメッセージのアーカイブ方法をカスタマイズできます。これらのヘッダーは「X-Kvs」から始まります。Enterprise Vault は「X-Kvs」のヘッダーを認識し、処理します。X-header リストにこれらを追加する必要はありません。</p> <p>p.53 の「X-Header について」を参照してください。</p>
詳細	<p>次の詳細設定は、アーカイブタスクがジャーナルレポートメッセージを処理する方法を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ RMS 保護されているアイテムのテキストコピーを消去します。ジャーナルレポート解読が Exchange Server 2013 または Exchange Server 2010 で設定されれば、2 つのメッセージ (RMS で保護されている元のメッセージと平文バージョン) がジャーナルレポートに添付されます。このポリシー設定は Enterprise Vault がアーカイブの間にプライマリメッセージとして平文メッセージを使うか、RMS で保護されたメッセージを使うかを制御します。 ■ ジャーナルレポート処理。この設定により、Enterprise Vault がジャーナルレポートを処理し、メッセージとともに格納するか、それとも破棄するのかが制御されます。ジャーナルされた SMTP メッセージを含むアーカイブにユーザーがアクセスできる場合、メッセージの BCC 受信者など、詳細にアクセスできないようにジャーナルレポートを破棄することがあります。 <p>これらの詳細設定については、『管理者ガイド』のジャーナルレポートの設定に関するセクションで詳しく説明されています。</p>
対象	<p>このポリシーが適用される SMTP ターゲットアドレス。このプロパティには、SMTP ターゲットを作成し、ポリシーを割り当てたときにデータが入力されます。</p>

新しい SMTP ポリシーを作成する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまでボルトサイト階層を展開します。
- 2 [ポリシー]を展開し、[SMTP]をクリックします。既存の SMTP ポリシーが右側のペインに一覧表示されます。
- 3 [SMTP]を右クリックし、ショートカットメニューで[新規作成]、[ポリシー]の順に選択します。新規 SMTP ポリシーのページが開きます。

- 4 新しいポリシーの名前と説明を入力し、[OK]をクリックします。
- 5 ポリシーのプロパティを表示または変更するためには、右側のペインの新しいポリシーをダブルクリックします。

X-Header について

MTA またはサードパーティアプリケーションを使うと、Enterprise Vault に送信する SMTP メッセージに X-Header を追加できます。メッセージに追加する X-Header の形式は RFC 822 に準拠する必要があります。ASCII 文字以外の文字が X-Header に含まれる場合には、エンコードは RFC 2047 に準拠する必要があります。

Enterprise Vault がこれらのヘッダーを認識し、メッセージのインデックスに追加するには、X-Header をポリシーの X-Header リストに追加します。Enterprise Vault は、大文字と小文字を区別してすべての X-Header の名前と値を扱うので、メッセージに表示されるとおりに X-Header を X-Header リストに追加する必要があります。

処理する X-Header それぞれに、次の情報を指定します。

- X-Header 名前。たとえば、X-Company-ID。
- X-Header に含まれる値の種類 (文字列、整数、日時)。
- X-Header を Enterprise Vault 検索基準の検索可能に追加できるかどうか。
- X-Header を検索基準の取得可能で返せるかどうか。

同じ X-Header の複数のインスタンスがメッセージに含まれている場合、Enterprise Vault は最初の値にのみインデックス付けします。同じ X-Header に複数の値を追加する場合は、Enterprise Vault X-Header の X-Kvs-IndexData を使います。

X-Kvs-IndexData を使うと、Enterprise Vault でインデックス付けする任意のカスタムプロパティをメッセージに効率的に追加できます。

X-Kvs X-Header について

このセクションでは、サードパーティ製のアプリケーションや MTA がメッセージに追加してポリシーやターゲットの設定を上書きできる特別な Enterprise Vault X-Header について説明します。これらの X-Header は「X-Kvs」から始まります。Enterprise Vault は「X-Kvs」のヘッダーを認識して処理します。ポリシープロパティの X-header 一覧にこれらを追加する必要はありません。

同じ X-Header の複数のインスタンスがメッセージに含まれる場合は、Enterprise Vault は最初のインスタンスのみを使用し、それ以外を無視します。

ポリシーの X-Header リストに追加する X-Header と同じように、Enterprise Vault はこれらの特別な X-Header の名前と値の大文字と小文字を区別します。

X-Kvs-Archiveld

X-Kvs-Archiveld はメッセージを格納するアーカイブの ID を示します。例:

X-Kvs-Archiveld: 160EEB78D4253BE40AA8EBEBA09C7DFEE1210000evserver1

このヘッダーを使うと、メッセージのターゲットアドレスに設定されているアーカイブとは異なるアーカイブを特定できます。

たとえば、メッセージはターゲットアドレスの `journal1@example.com` に送られますが、そのターゲットアドレスに設定されているアーカイブは `journal1` です。X-Kvs-Archiveld がメッセージに追加された場合、Enterprise Vault は、`journal1` ではなく、X-Header で特定されたアーカイブにメッセージを保存します。

X-Kvs-IndexData

Enterprise Vault X-Header の X-Kvs-IndexData を使って、次の操作を実行できます。

- 1 つの X-Header に複数の値を追加します。標準 X-Header を使って追加できるのは、X-Header ごとに 1 つの値のみです。
- 1 つの X-Header に複数のカスタムインデックスプロパティおよびプロパティ値を追加します。

ヘッダー値は、XML を使って指定します。XML 要素、属性名、値の大文字と小文字は区別されます。

次に示す X-Kvs-IndexData の例では、複数の値を持つ X-Header の X-ExampleCorp-Dept を追加します。

```
X-Kvs-IndexData: <ARCHIVED_ITEM version="1.0"><PROPSET NAME="EVXHDR">
<PROP NAME=" X-ExampleCorp-Dept RESULTS="true" SEARCH="true">
<VALUE>Sales</VALUE><VALUE>Marketing</VALUE></PROP></PROPSET>
</ARCHIVED_ITEM>
```

Enterprise Vault は予約済みのインデックスプロパティセット EVXHDR に X-Header を追加します。別のカスタムインデックスプロパティを追加する場合は、これらのプロパティに別のプロパティセットを指定する必要があります。カスタムインデックスプロパティに適したプロパティセット名は、会社名またはアプリケーション名などです。次のプロパティセット名は予約されています。

- Vault
- EnterpriseVault
- EV で始まる任意のプロパティセット名 (EVXHDR など)
- KVS
- Veritas

次の例では、X-Kvs-IndexData を使って、Dept および Region の 2 つのカスタムインデックスプロパティをメッセージに追加します。

```
X-Kvs-IndexData: <ARCHIVED_ITEM version="1.0"><PROPSET NAME="ChatApp">
<PROP NAME="Dept" type="string" RESULTS="true"
SEARCH="true">Sales</PROP>
<PROP NAME="Region" type="string" RESULTS="true"
SEARCH="true">EMEA</PROP>
</PROPSET></ARCHIVED_ITEM>
```

この例では、2 つのカスタムインデックスプロパティのプロパティセット名に **ChatApp** というアプリケーション名が使われます。

最初のプロパティ **ChatApp.Dept** の値は「Sales」です。このプロパティは検索可能であり、取り込み可能です。

2 番目のプロパティ **ChatApp.Region** の値は「EMEA」です。このプロパティも検索可能であり、取り込み可能です。

次の例では、**X-Kvs-IndexData** を使って、複数の値を持つカスタムインデックスプロパティ **ChatApp.Region** を追加します。

```
X-Kvs-IndexData: <ARCHIVED_ITEM version="1.0"><PROPSET NAME="ChatApp">
<PROP NAME="Region" type="string" RESULTS="true" SEARCH="true">
<VALUE>USA</VALUE><VALUE>EMEA</VALUE><VALUE>ASIA</VALUE></PROP>
</PROPSET></ARCHIVED_ITEM>
```

この例では、**ChatApp.Region** プロパティの値は「USA」、「EMEA」、「ASIA」です。このプロパティは検索可能であり、取り込み可能です。

ヘッダーサイズはできるだけ小さくすることをお勧めします。デフォルト値が必須である属性は、ヘッダー内で省略することができます。表 4-5 に、XML 属性のデフォルト値を示します。

表 4-5 XML 属性のデフォルト値

属性	デフォルト値
RESULTS	"false"
SEARCH	"true"
type	"文字列"

上記の例では、**SEARCH** のデフォルト値と **type** 属性は必須であるため、省略できます。

```
X-Kvs-IndexData: <ARCHIVED_ITEM version="1.0"><PROPSET NAME="ChatApp">
<PROP NAME="Region"
RESULTS="true"><VALUE>USA</VALUE><VALUE>EMEA</VALUE>
<VALUE>ASIA</VALUE></PROP></PROPSET></ARCHIVED_ITEM>
```

X-Kvs-IndexData を使って追加されたカスタムインデックスプロパティを検索する場合は、このプロパティを *property_set_name.property_name* (ChatApp.Region など) の形式で指定します。

X-Kvs-IndexData を使って追加された X-Header を検索する場合は、この X-Header を *EVXHDR.X-Header_name* (EVXHDR.X-ExampleCorp-Dept など) の形式で指定します。

p.58 の「[アーカイブで特定の X-Header を含むメッセージを検索する](#)」を参照してください。

X-Kvs-IndexData ヘッダー内で指定した値については、次の点に注意してください。

- XML 値は RFC 822 の構文規則に従って省略できます。
- XML で国別文字を使うには、全体のヘッダー値を RFC 2047 の指定どおりにエンコードする必要があります。
次の例では、UTF-8 文字セットと BASE64 エンコードが使われている場合にヘッダー値がどのように表示されるかを示します。

```
X-Kvs-IndexData:
=?UTF-8"?B?PEFSQ0hJVkVEX0lURU0+PFBSTlBTRVQgTkFNRT0i
Q2hhdEFwcCI+PFBSTlAgTkFNRT0iRGVwdCI+PFZBTfVFP1NhbGVzPC9WQUxVRT48L1BS
TlA+PC9QUk9QU0VUPjwvQVJDSElWRURfSVRFTT4=?=
```

XML の特定の単語のみをエンコードすることはできません。同様に、XML prolog でエンコードを指定することは適切ではありません。次に例を示します。

```
X-Kvs-IndexData: <ARCHIVED_ITEM version="1.0" encoding="UTF-8"> ...
</ARCHIVED_ITEM>
```

X-Kvs-MessageType

X-Kvs-MessageType はメッセージの種類を識別します。例: X-Kvs-MessageType: Bloomberg

このヘッダーを使ってアーカイブ時に Enterprise Vault がメッセージに割り当てる Vault.MsgType プロパティの値が上書きされます。デフォルトでは、SMTP アーカイブを使用してメッセージをアーカイブする場合は、Enterprise Vault は値 SMTP.Mail を Vault.MsgType プロパティに割り当てます。

Vault.MsgType プロパティの値は、Discovery Accelerator などの検索アプリケーションで検索するメッセージのフィルタ処理に使用できます。たとえば、SMTP アーカイブを使って Bloomberg メッセージをアーカイブする場合には、メッセージの種類が Bloomberg として識別される必要があります。メッセージの種類が Bloomberg に設定されていない場合、メッセージは Bloomberg メッセージの Discovery Accelerator 検索に含まれません。

X-Kvs-OriginalLocation

X-Kvs-OriginalLocation はメッセージに設定するコンテンツソース内の場所を識別します。元の場所はメッセージが存在するコンテンツソースのフォルダを示します。これは最上位レベルのフォルダの名前またはフォルダパスに設定できます。例:

X-Kvs-OriginalLocation: CompanyA ¥ ProductB ¥ CustomerC

この **X-Header** をメッセージに追加して、メッセージに別のアーカイブフォルダを指定することができます。メッセージに上記のサンプル **X-Header** が含まれていて、ターゲットアーカイブの種類にフォルダが含まれている場合、タスクはメッセージを次の場所に格納します。

トップレベルフォルダ: CompanyA

サブフォルダ: ProductB

サブフォルダ: CustomerC

フォルダ構造が存在しない場合、メッセージを格納するとき、タスクによりフォルダが作成されます。

この **X-Header** が有効になるのは、ターゲットアーカイブの種類にフォルダが含まれている場合のみです。

SMTP ジャーナルと SMTP グループジャーナルでは、アーカイブの種類にフォルダを含めることができる場合、SMTP アーカイブタスクはメッセージを受信トレイにアーカイブします。メッセージに **X-Kvs-OriginalLocation** ヘッダーが含まれていて、アーカイブにフォルダを含めることができる場合、タスクは受信トレイでなく、**X-Header** で指定された場所にメッセージを格納します。

通常は、SMTP メールボックスジャーナルに使われるアーカイブの種類にフォルダを含めることができます (**Exchange** メールボックスアーカイブやインターネットメールアーカイブなど)。ターゲットアドレスが送信者、受信者、またはその両方であるかどうかに応じて、このタスクは受信トレイ、送信済みアイテムフォルダ、またはその両方にメッセージを格納します。メッセージに **X-Kvs-OriginalLocation** ヘッダーが含まれている場合、タスクは受信トレイや送信済みアイテムフォルダでなく、**X-Header** で指定された場所にメッセージを格納します。

X-Kvs-RetentionCategory

X-Kvs-RetentionCategory は、メッセージに割り当てる保持カテゴリの ID を提供します。

例: **X-Kvs-RetentionCategory:**

1505EB2CDB9C6AA44B30335E4A785F98C1b10000evserver1

このヘッダーを利用し、メッセージのターゲットアドレスに設定されている保持カテゴリとは異なる保持カテゴリを特定できます。

たとえば、メッセージはターゲットアドレスの **journal1@example.com** に送られ、そのターゲットアドレスに設定されている保持カテゴリは **7years** です。 **X-Kvs-RetentionCategory**

がメッセージに追加された場合、Enterprise Vault は、7years ではなく、X-Header で特定された保持カテゴリを適用します。

アーカイブで特定の X-Header を含むメッセージを検索する

Enterprise Vault による検索では、Discovery Accelerator や高度な検索機能を使って特定の X-Header の名前や値を含むメッセージをアーカイブで検索できます。Enterprise Vault による検索で、最初に[環境設定]ダイアログボックスのカスタムフィールドの表示をオンにする必要があります。この設定手順については、Enterprise Vault による検索のオンラインヘルプを参照してください。

Enterprise Vault が X-Header リスト内のヘッダーや X-Kvs ヘッダーを含むメッセージにインデックス付けするときに、インデックスのプロパティセット EVXHDX に X-Header 名が追加されます。検索条件で、EVXHDX-Header_name 形式(たとえば、EVXHDX.R.X-CompanyID や EVXHDX.X-Kvs-Archiveld)で X-Header 名を指定します。

X-Header 名と値は大文字と小文字を区別します。

SMTP メッセージのアーカイブの設定

SMTP ターゲットアドレスを作成するとき、ターゲットアドレスとアーカイブを関連付けます。アーカイブには既存アーカイブを指定できます。また、SMTP アーカイブを使って格納されるアイテムを保持するために新しいアーカイブを作成することもできます。

SMTP ジャーナルや SMTP グループジャーナルに使用できるアーカイブの種類は、SMTP、共有、Exchange ジャーナル、または Domino ジャーナルアーカイブです。SMTP ルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループを作成するときに、Enterprise Vault は既存のアーカイブを選択するか、SMTP アーカイブを新しく作成するように求めます。

アーカイブの負荷を分散するため、1 つの SMTP ジャーナルのルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループに複数のアーカイブを割り当てることができます。

p.61 の「[アーカイブの負荷を複数のサーバー間で分散するための複数のアーカイブの割り当て](#)」を参照してください。

ターゲットに関連付けられるすべてのアーカイブには、同じ保持設定を付与する必要があります。Enterprise Vault は、ルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループに割り当てられているアーカイブの保持設定を自動的に管理します。

p.48 の「[複数のアーカイブでのカスケード保持設定の管理](#)」を参照してください。

Exchange メールボックスアーカイブやインターネットメールアーカイブなどの、フォルダを含めることができるユーザーアーカイブの種類は、SMTP メールボックスジャーナルに対してのみ使用できます。SMTP メールボックスジャーナルの手動ターゲットを追加する

場合は、必要なアーカイブがすでに存在することが必要です。SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループを作成する際、Enterprise Vault はインターネットメールアーカイブを作成するボルトストアを選択するように求めます。インターネットメールアーカイブがまだ割り当てられていないユーザーについては、選択したボルトストアに新しいアーカイブが作成されます。

たとえば、新しい SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループに 20 ユーザーを追加し、そのうちの 5 ユーザーが VaultStore1 にすでにインターネットメールアーカイブを持っているとします。そのグループのボルトストアとして VaultStore2 を選択すると、他の 15 ユーザーのインターネットメールアーカイブが VaultStore2 に作成されます。プロビジョニングタスクの実行時、Enterprise Vault は Active Directory でユーザー名を検索し、そのユーザーの SMTP アドレスをすべて取得し、そのユーザーにインターネットメールアーカイブがあるかどうかを確認します。ない場合は、このユーザー用の新しいアーカイブを VaultStore2 に作成します。

表 4-6 はどのアーカイブの種類がフォルダ構造を含めることができるかを示します。

表 4-6 アーカイブの種類別の構造

アーカイブの種類	フォルダを含有可能か
Exchange メールボックス	はい
Exchange ジャーナル	いいえ
Domino ジャーナル	いいえ
SMTP	はい
インターネットメール	はい
Shared	はい

Exchange メールボックスやインターネットメールなど、一部の種類のアーカイブは手動で作成できません。詳しくは、設定ガイドを参照してください。

SMTP グループジャーナルと SMTP メールボックスジャーナルを使用することで、メッセージの複製を複数のアーカイブに格納できます。

Enterprise Vault は、ボルトストア設定で許可されるように単一インスタンスストレージを実装します。ボルトストアグループのすべてのボルトストアで単一インスタンスストレージを有効にするには、次の条件を満たす必要があります。

- アーカイブが同じボルトストアグループにある必要があります。
- ボルトストアグループの設定でグループ内共有を許可する必要があります。

ボルトストア内で単一インスタンスストレージを有効にするには、次の条件を満たす必要があります。

- アーカイブは同じボルトストアにある必要があります。

- 親ボルトストアグループの設定でグループ内共有を許可する必要があります。

SMTP ジャーナルや SMTP グループジャーナルでは、アーカイブの種類にフォルダが含まれている場合、メッセージはアーカイブの受信トレイに格納されます。SMTP メールボックスジャーナルでは、次のルールが適用されます。

- 受信者のフィールドにターゲットアドレスが含まれるすべてのメッセージをアーカイブの受信トレイに格納します。
- 送信者や送信元のフィールドでターゲットアドレスが見つかった場合は、メッセージを送信済みアイテムのフォルダに格納します。
- ターゲットアドレスがメッセージの送信者と受信者両方の場合は、メッセージを受信ボックスと送信済みアイテムのフォルダの両方に格納します。

特別な X-Header である X-Kvs-OriginalLocation を使い、アーカイブタスクの動作を変更することができます。この X-Header を利用し、メッセージを格納するためアーカイブのフォルダを指定できます。この X-Header が有効になるのは、ターゲットアーカイブの種類にフォルダ構造を含めることができる場合のみです。

SMTP アーカイブタスクではアーカイブフォルダと元のメールボックスのフォルダを同期できないことに注意してください。

SMTP アーカイブを作成するには

- 1 管理コンソールの左側のペインで、階層を展開して[アーカイブ]を表示します。
- 2 [アーカイブ]を展開します。
- 3 [SMTP]を右クリックして、ショートカットメニューを[新規作成]、[アーカイブ]の順にクリックします。

[新規 SMTP アーカイブ]ウィザードが起動します。

- 4 ウィザードに従って操作します。

次の情報を指定する必要があります。

- アーカイブを作成するボルトストア
- 必要なインデックスサービス
- インデックスレベル
- 課金用アカウント
- Enterprise Vault によってアーカイブに格納されたアイテムに適用される保持設定

アーカイブの負荷を複数のサーバー間で分散するための複数のアーカイブの割り当て

Enterprise Vault 12.3 以降では、複数のアーカイブと Enterprise Vault ストレージサーバー間でアーカイブの負荷を分散するために、SMTP ジャーナルルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループに複数のアーカイブを割り当てることができます。Enterprise Vault の以前のリリースでこれを行う方法は、ターゲットアドレスの書き換えしかありませんでした。

SMTP アーカイブタスクでは、次の条件に基づいて、SMTP ターゲットアドレスに送信されたメッセージが格納されます。

- SMTP ターゲットアドレスは、複数のアーカイブに割り当てられ、サーバー上で実行されているタスクは常にそのサーバーのローカルアーカイブにアーカイブされます。
- サーバーで複数のローカルアーカイブが検出された場合、タスクはアイテム数が最小のアーカイブを選択します。
- すべてのローカルアーカイブが、ストレージがビジー状態である、ボルトストアがバックアップモードにあるなどの一時的なエラーのために利用できない場合、このタスクは SMTP ターゲットアドレスに割り当てられたリモートアーカイブを選択します。

アーカイブが続行されるため、タスクはアーカイブのキャッシュと各アーカイブのアイテムの数と併せて維持します。このキャッシュは、10 分ごとに更新されます。次に、このタスクはアイテム数が最小のアーカイブに切り替えます。

一時的なエラーが解決すると、タスクはローカルアーカイブへのアーカイブを開始します。割り当てられたアーカイブに利用可能なものがない場合、SMTP タスクはイベントログにエラーを報告します。

ルーティングアドレスまたはプロビジョニンググループを作成するとき、またはターゲットのプロパティを編集することによって、複数のアーカイブを割り当てることができます。

アーカイブの負荷を最適な状態に分散するには、異なる Enterprise Vault ストレージサーバーにホストされたさまざまなボルトストア内のアーカイブに、各ルーティングアドレスまたはプロビジョニンググループを割り当ててをお勧めします。

メモ: ソフトウェアまたはハードウェアの負荷分散ソリューションを使っている場合、ルーティングアドレスに送信されるメッセージを受信し、Enterprise Vault SMTP サーバーにメッセージを配布するようにそのソリューションを設定する必要があります。

SMTP ルーティングアドレスの追加

ルーティングアドレスは、SMTP 電子メールメッセージを Enterprise Vault SMTP サーバーに転送するために使用されます。SMTP ジャーナルを設定する場合、追加する唯一のターゲットアドレスはルーティングアドレスです。SMTP グループジャーナルまたは

SMTP メールボックスジャーナルを設定する場合は、必須のルーティングアドレスを追加してから、追加のターゲットアドレスを設定します。

SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルのターゲットアドレスを追加する際は、プロビジョニンググループを作成することをお勧めします。プロビジョニンググループを使用して、ルーティングアドレスを追加することはできません。

SMTP ルーティングアドレスは、手動の SMTP ターゲットアドレスとして追加されます。このセクションで説明する Enterprise Vault 管理コンソール、または PowerShell コマンドレットの New-EVSMTPTarget を使用できます。

Enterprise Vault 管理コンソールを使って SMTP ルーティングアドレスを追加するには

- 1 ナビゲーションペインで、[対象]、[SMTP]、[手動ターゲット]の順に移動します。
- 2 [手動ターゲット]コンテナを右クリックし、[新規作成]、[対象の電子メールアドレス]の順に選択します。
新規 SMTP ターゲットウィザードが起動します。
- 3 *user@domain* の形式でルーティングアドレスを入力します。ワイルドカード文字は SMTP ターゲットアドレスを指定するときは許可されません。
- 4 SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルを実装する場合も、ここでは、ジャーナルオプションの種類を[SMTP ジャーナル]に設定したままにします。
- 5 ルーティングアドレスを含むメッセージに適用する SMTP ポリシーを選択します。
[次へ]をクリックします。
- 6 [追加]をクリックして、これらのメッセージを格納するアーカイブを選択します。このターゲットを新しい SMTP アーカイブに関連付ける場合は、[新規作成]をクリックします。
[次へ]をクリックします。
- 7 メッセージに適用する保持設定を選択します。[次へ]をクリックします。

メモ: ターゲットのアーカイブが、他のアーカイブに関連付けられた別のターゲットにも関連付けられている場合、保持設定への変更は複数のアーカイブに適用されることがあります。

- 8 ターゲットプロパティの概略が表示されます。[完了]をクリックします。

- 9 SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルを設定した後、このルーティングアドレスを追加する場合は、タスクプロパティまたはコンテキストメニューの[今すぐ実行]オプションを使用して SMTP プロビジョニングタスクを再実行します。
- 10 SMTP プロビジョニングタスクの実行が完了したら、Enterprise Vault SMTP サーバー上で SMTP アーカイブタスクを再起動します。サイトに複数の Enterprise Vault SMTP サーバーが存在する場合、各 SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを開始する必要があります。

SMTP ジャーナルの設定の確認

SMTP ジャーナルを実装するときに確認する必要がある設定を次に示します。

- Enterprise Vault SMTP ルーティングアドレスにすべてのメッセージのコピーを BCC 配信またはジャーナルするようにリレー MTA が設定されていることを確認します。
- Enterprise Vault SMTP サーバーに対し、任意の負荷分散ソリューションが正しく設定されていることを確認します。
- Enterprise Vault サーバーに接続できるサーバーの設定などの SMTP サーバーの設定を確認します。SMTP サーバー設定は、サイトのすべての Enterprise Vault SMTP サーバーに適用されます。
Enterprise Vault 管理コンソールでは、SMTP サーバー設定は[ターゲット]、[SMTP]のコンテナのプロパティにあります。
- SMTP サイトの詳細設定[選択したジャーナルのアーカイブ]に設定された値を確認します。別の種類の SMTP ジャーナルとの組み合わせではなく、SMTP ジャーナルのみを実装する場合、値を[非選択]に設定します。これにより、SMTP アーカイブタスクは、保存フォルダにある各メッセージの X-RCPT-TO フィールドのみを診断します。すべての送信者と受信者フィールドでのターゲットアドレスの検索 (X-RCPT-TO、To、CC、BCC、From、Sender) は、SMTP グループジャーナルや SMTP メールボックスジャーナルなどの選択ジャーナルを実装する場合にのみ必要です。
Enterprise Vault 管理コンソールで、[選択したジャーナルのアーカイブ]はサイトプロパティの[詳細]タブにあります。サイトプロパティを開き、[詳細]タブを選択します。[一覧表示する設定の種類]ボックスで[SMTP]を選択すると、[選択したジャーナルのアーカイブ]が設定のリストに含められます。
- ルーティングアドレスが、必要なポリシー、保持設定、およびアーカイブを使用して正しく設定されていることを確認します。
アドレスの書き換えを設定していない場合、すべてのルーティングアドレスのアーカイブを有効にする必要があります。つまり、ターゲットの[この SMTP アドレスで送信または受信したメッセージをアーカイブする]プロパティを選択する必要があります。
- ルーティングアドレスに複数のアーカイブを割り当てた場合は、これらのアーカイブの場所が予想どおりであることを確認します。

ジャーナルするメッセージの容量が大きい場合は、複数の Enterprise Vault ストレージサーバーにアーカイブ負荷を分散することを推奨します。異なるボルトストアで複数のジャーナルアーカイブを作成することによってこれを実行できます。各ボルトストアは、異なる Enterprise Vault ストレージサービスによって管理される必要があります。

- 複数のアーカイブが 1 つのルーティングアドレスに割り当てられている場合、すべてのアーカイブは、同じ保持設定である必要があります。

Compliance Accelerator の追加設定

使用環境内で Compliance Accelerator を使う場合は、SMTP メッセージをアーカイブする前に、Enterprise Vault サイトの SMTP 設定を適切に設定することが重要です。

Compliance Accelerator で SMTP メッセージの送信者と受信者が社内なのか、または外部なのかを判別するには、Enterprise Vault に内部ドメインとして処理する必要がある SMTP ドメインを指示する必要があります。このようにすると、Enterprise Vault はアーカイブされるメッセージごとにインデックスプロパティ Vault.MsgDirection の値を適切に設定できるようになります。その後、Compliance Accelerator がこれらのメッセージを処理する場合は、Vault.MsgDirection プロパティ値からメッセージの移動方向を判別できます。

詳しくは、Compliance Accelerator『管理者ガイド』の「Compliance Accelerator の電子メールアドレス処理の設定」を参照してください。

内部 SMTP ドメインのリストを送信するには

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールで、Enterprise Vault サイトの[サイトプロパティ]ダイアログボックスを開きます。
- 2 [詳細]タブの[一覧表示する設定の種類]ボックスで、[SMTP]を選択します。
- 3 [内部 SMTP ドメインのリスト]をクリックしてから、[修正]をクリックします。
- 4 内部ドメインのリストを入力し、[OK]をクリックします。

SMTP グループまたは SMTP メールボックスジャーナル用のユーザーのプロビジョニング

この章では以下の項目について説明しています。

- [SMTP プロビジョニンググループについて](#)
- [SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループの追加](#)
- [SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループの追加](#)
- [SMTP プロビジョニンググループの順序の変更](#)
- [SMTP プロビジョニンググループの削除](#)
- [SMTP プロビジョニングタスクの追加または削除](#)
- [SMTP プロビジョニングタスクの概略レポート](#)
- [SMTP サイト設定\[選択したジャーナルのアーカイブ\]の設定](#)
- [SMTP ターゲットアドレスの手動での追加](#)

SMTP プロビジョニンググループについて

SMTP プロビジョニンググループを使用すると、初期設定が容易になるほか、SMTP グループジャーナルと SMTP メールボックスジャーナルの多数の対象ユーザーを管理しやすくなります。複数のプロビジョニンググループを作成して、ユーザーグループごとに

異なるポリシー設定や保持設定を適用できます。たとえば、販売部門のユーザー用にあるプロビジョニンググループを作成し、エンジニアリング部門のユーザー用に別のプロビジョニンググループを作成できます。

SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルのプロビジョニンググループを作成する前に、必要な SMTP ルーティングアドレスを追加する必要があります。ルーティングアドレスは、手動の SMTP ターゲットアドレスとして追加されます。プロビジョニンググループを使用して、ルーティングアドレスを追加することはできません。

p.61 の「[SMTP ルーティングアドレスの追加](#)」を参照してください。

最初のプロビジョニンググループを作成する際、Enterprise Vault は SMTP プロビジョニングタスクを作成するかどうかを尋ねます (まだ作成されていない場合)。プロビジョニングタスクの実行時、グループ内の各対象ユーザーに対し、プロビジョニンググループのアーカイブ設定と保持設定が設定されます。プロビジョニングタスクは、各グループの対象ユーザーをどのようにプロビジョニングしたかを示すレポートを作成します。プロビジョニングレポートには、プロビジョニングの実行中に発生した問題の詳細が記載されます。

p.75 の「[SMTP プロビジョニングタスクの概略レポート](#)」を参照してください。

プロビジョニンググループには、SMTP グループジャーナル用にユーザーを設定するものと、SMTP メールボックスジャーナル用にユーザーを設定するものの 2 種類があります。新しいプロビジョニンググループは、管理コンソールで[対象]、[SMTP]、[プロビジョニンググループ]の順に選択して作成します。

SMTP プロビジョニンググループの順序は重要です。Enterprise Vault は、リストの上から下の順にグループを処理します。大規模なグループに対象ユーザーを追加する場合は、グループの順序付けを使って、特定のユーザーを別の方法で処理できます。

p.72 の「[SMTP プロビジョニンググループの順序の変更](#)」を参照してください。

SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループについて

グループメンバーのメッセージが、プロビジョニンググループに割り当てたアーカイブにまとめてアーカイブされるようにするには、SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループを使用します。

この種類のグループの新しいプロビジョニンググループウィザードで、メッセージを格納する 1 つ以上のアーカイブを選択または作成します。SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループに割り当てられているすべてのアーカイブは、同じ保持設定になっている必要があります。Enterprise Vault は、この必要条件を強制的に満たします。グループアーカイブのいずれかで保持設定を変更すると、グループに割り当てられている他のすべてのアーカイブにも変更が反映されます。

p.48 の「[複数のアーカイブでのカスケード保持設定の管理](#)」を参照してください。

新しいプロビジョニンググループウィザードでアーカイブを作成する場合は、SMTP アーカイブのみ作成できます。ただし、既存のアーカイブを選択した場合は、SMTP、共有、Exchange ジャーナル、Domino ジャーナルのいずれかの種類のアーカイブを選択できます。

プロビジョニンググループに複数のアーカイブを割り当てると、アーカイブ間でアーカイブの負荷が分散されます。

SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループについて

各グループメンバーのメッセージが、個人用のインターネットメールアーカイブに個別にアーカイブされるようにするには、SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループを使用します。インターネットメールアーカイブは自動的に作成および設定されます。

この種類のプロビジョニンググループの新しいプロビジョニンググループウィザードで、新しいインターネットメールアーカイブを作成するボルトストアを選択します。

SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループで対象ユーザーやアドレスをプロビジョニングする際、SMTP プロビジョニングタスクは、対象ユーザーまたはアドレスを **Active Directory** ユーザーアカウントに解決しようとします。続いて、そのユーザーのインターネットメールアーカイブがすでにあるかどうかを **Enterprise Vault** 設定で確認します。インターネットメールアーカイブがある場合は、そのアーカイブをユーザーの SMTP メッセージに割り当てます。インターネットメールアーカイブがない場合は、選択したボルトストアに新規作成します。ユーザーには、新しいアーカイブへのアクセス権限が付与されます。

対象の **Active Directory** アカウントが見つからない場合は、ターゲット SMTP アドレスをアーカイブ名として使用します。たとえば、ターゲット電子メールアドレスが `john.doe@example.com` の場合、アーカイブ名は `john.doe@example.com` になります。この場合は、アーカイブへのアクセス権限を手動で追加する必要があります。

Enterprise Vault で対象ユーザーを IMAP アクセス用に設定してある場合、インターネットメールアーカイブも用意されています。SMTP アーカイブと IMAP アクセスの両方に同じインターネットメールアーカイブが使用されている場合は、IMAP と SMTP プロビジョニンググループの両方で、アーカイブに対して同じ保持設定を設定する必要があります。

IMAP アクセスのクライアントアクセスプロビジョニングタスクと SMTP プロビジョニングタスクの両方を同じ対象ユーザーにスケジュール設定する場合は、スケジュールをずらして、両方のタスクが同時に実行されないようにすることをお勧めします。

SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループで、対象ユーザーのアーカイブの保持設定を変更しても、**Enterprise Vault** は、SMTP ジャーナルや SMTP グループジャーナルのように、その変更をグループ内の他のアーカイブには適用することはありません。ただし、プロビジョニングタスクは、次のプロビジョニング実行時に、プロビジョニンググループの保持設定をアーカイブに復元します。

プロビジョニンググループへの対象ユーザーの追加について

プロビジョニンググループへの対象ユーザーの追加は、新しいプロビジョニンググループウィザードで行えます。プロビジョニンググループの作成後は、プロビジョニンググループの[対象]プロパティを使用して、グループメンバーを追加または削除できます。次に示すのは、ウィザードとグループプロパティで使用可能なオプションです。

- Windows グループ
- Windows ユーザー
- LDAP クエリー
- 組織単位
- 配布グループ
- 電子メールアドレス

グループに対象ユーザーを追加するとき、**Active Directory** 対象ユーザーを追加する場合は必ず[電子メールアドレス]以外のいずれかのメニューオプションを使用することをお勧めします。

Active Directory アカウントに関連付けられていないユーザーのターゲット SMTP アドレスをプロビジョニンググループに追加するには、[電子メールアドレス]オプションを使用します。たとえば、このオプションを使用して、組織外のユーザーをグループに追加できます。このオプションを使用して、[手動ターゲット]の下に表示される既存のターゲットアドレスをグループに追加することもできます。[手動ターゲット]の下にある既存のターゲットを削除しないかぎり、**Enterprise Vault** はターゲットアドレスをグループのメンバーとしてプロビジョニングできません。

Active Directory ユーザーのすべての SMTP アドレスをターゲットとして含めるには、[通常の電子メールアドレスのみをターゲットにする]のチェックマークをはずします (チェックマークが付いている場合)。このオプションは、ウィザードのプロビジョニンググループプロパティの[全般]タブにあります。対象ユーザーに **Active Directory** の SMTP アドレスがない場合は、ターゲットが作成されますが、アーカイブは無効です。

同じ対象ユーザーが複数のプロビジョニンググループに含まれる場合、ユーザーは、最初に処理されたグループに従ってプロビジョニングされます。**Enterprise Vault** によるプロビジョニンググループの処理順序は変更できます。**SMTP** グループジャーナルと **SMTP** メールボックスジャーナル用のプロビジョニンググループは一緒にリストされるため、両方の種類のジャーナルに対して同じユーザーをプロビジョニングすることはできません。

マルチサイトの **SMTP** アーカイブ環境で一部の対象ユーザーが複数サイトに存在する場合、[通常の電子メールアドレスのみをターゲットにする]が全サイトで一貫して設定されている必要があります。

ダッシュボードを使用すると、プロビジョニンググループの **SMTP** 対象ユーザーをリストし、その設定の詳細を表示できます。ダッシュボードを開くには、管理コンソールのナビゲーションペインで[対象]、[SMTP]の順に選択します。

一般的なジャーナルアーカイブからのメンバーのメッセージの除外

SMTP ジャーナルで **SMTP** グループジャーナルまたは **SMTP** メールボックスジャーナルを実装する場合、[選択したジャーナルのアーカイブ]設定を使用すると、対象ユーザーのメッセージを、**SMTP** ジャーナルアーカイブと **SMTP** グループ/メールボックスジャーナルアーカイブの両方にアーカイブするかどうかを制御できます。たとえば、プロビジョニ

ングされた対象ユーザーが、自分のメッセージを一般的なジャーナルアーカイブではなくプロビジョニンググループアーカイブにのみアーカイブしたい上級マネージャだとします。この場合、値[除外]を使用して、対象ユーザーのメッセージの保存先を制限できます。

SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルについては、SMTP サイトの詳細設定値である[選択したジャーナルのアーカイブ]を[包含]または[除外]にする必要があります。最初のプロビジョニンググループを作成する際、Enterprise Vault は[包含]に値を自動的に設定します。その後、設定値を変更しても、Enterprise Vault は自動的に更新しません。

p.75 の「SMTP サイト設定[選択したジャーナルのアーカイブ]の設定」を参照してください。

プロビジョニンググループの全メンバーに対するアーカイブの有効化または無効化

プロビジョニンググループは、アーカイブを有効または無効にして作成できます。新しいプロビジョニンググループウィザードでは、[これらのユーザーが送受信したメッセージをアーカイブする]設定でこれが制御されます。

プロビジョニンググループに多数の対象ユーザーを追加し、そのグループ内の特定のユーザーをアーカイブから除外する場合は、アーカイブが無効なプロビジョニンググループを作成すると便利です。アーカイブが無効なプロビジョニンググループを作成し、除外するユーザーを対象として追加できます。このプロビジョニンググループが、プロビジョニンググループリストの先頭になるようにします。

プロビジョニンググループの作成後、プロビジョニンググループプロパティの[全般]タブにある[プロビジョニングされたユーザーのメッセージをアーカイブする]設定を使用して、グループメンバーのアーカイブを有効にするかどうかを制御できます。

手動で追加したターゲットについて

SMTP グループジャーナルおよび SMTP メールボックスジャーナルのユーザーを設定するには、SMTP プロビジョニンググループを使用することを強くお勧めします。必要に応じ、[手動ターゲット]ノードを使用して、SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルのターゲット SMTP アドレスを追加できます。この方法で追加するターゲットは、どのプロビジョニンググループにも関連付けられません。

p.77 の「SMTP ターゲットアドレスの手動での追加」を参照してください。

SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループの追加

SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループを追加する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナを展開して、[SMTP]コンテナを展開します。
- 3 [プロビジョニンググループ]コンテナを右クリックし、[新規作成]、[プロビジョニンググループ]、[SMTP グループジャーナル]の順にクリックします。

ウィザードが起動します。

- 4 フィールドに入力し、[プロビジョニンググループの作成]をクリックします。次の項目の指定を求めるメッセージが表示されます。
 - プロビジョニンググループの名前。
 - プロビジョニンググループのメンバーに対して SMTP アーカイブが有効か無効か。これは、[プロビジョニングされたユーザーのメッセージをアーカイブする]設定によって制御されます。
 - このプロビジョニンググループ内の対象ユーザーに割り当てられている SMTP ポリシー。
 - 各 Active Directory アカウントに関連付けられている SMTP 電子メールアドレスに対してターゲットを作成する際に、各アドレスを対象にするか、プライマリアドレスのみを対象にするか。
 - プロビジョニンググループを適用するドメイン。必要に応じて新しい Active Directory ドメインの詳細を入力できます。
環境で信頼できるドメインを選択する必要があります。必要に応じて、必要なグローバルカタログサーバーを指定できます。
 - プロビジョニンググループのメンバーである対象ユーザー。
 - グループメンバーのメッセージを格納するアーカイブ。SMTP、共有、Exchange ジャーナル、Domino ジャーナルの各種類のアーカイブを選択するか、新しい SMTP アーカイブをウィザードで作成できます。
 - グループに割り当てる保持カテゴリまたは保持計画。保持計画またはカテゴリを選択するか、ウィザードで新規作成できます。
 - すべての SMTP プロビジョニンググループの SMTP プロビジョニングタスクをホストするための Enterprise Vault サーバー。最初のプロビジョニンググループを作成するときに、SMTP プロビジョニングタスクを作成するオプションがあります。このタスクは、プロビジョニンググループの対象に必要なポリシーを適用します。サイトにある任意の Enterprise Vault サーバーでタスクをホストできます。

- 5 新しいプロビジョニンググループは、SMTP プロビジョニングタスクが次に実行されるときに設定されます。タスクのプロパティまたはコンテキストメニューの[今すぐ実行]オプションを使用して、タスクを即座に実行できます。
- 6 プロビジョニングタスクの実行が終了したら、Enterprise Vault SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを再起動します。サイトに複数の Enterprise Vault SMTP サーバーが存在する場合、各 SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを開始する必要があります。

SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループの追加

SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループを追加する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナを展開して、[SMTP]コンテナを展開します。
- 3 [プロビジョニンググループ]コンテナを右クリックし、[新規作成]、[プロビジョニンググループ]、[SMTP メールボックスジャーナル]の順にクリックします。
ウィザードが表示されます。
- 4 フィールドに入力し、[プロビジョニンググループの作成]をクリックします。次の項目の指定を求めるメッセージが表示されます。
 - プロビジョニンググループの名前。
 - プロビジョニンググループのメンバーに対して SMTP アーカイブが有効か無効か。これは、[プロビジョニングされたユーザーのメッセージをアーカイブする]設定によって制御されます。
 - このプロビジョニンググループ内の対象ユーザーに割り当てられている SMTP ポリシー。
 - 各 Active Directory アカウントに関連付けられている SMTP 電子メールアドレスに対してターゲットを作成する際に、各アドレスを対象にするか、プライマリアドレスのみを対象にするか。
 - プロビジョニンググループを適用するドメイン。必要に応じて新しい Active Directory ドメインの詳細を入力できます。
環境で信頼できるドメインを選択する必要があります。必要に応じて、必要なグローバルカタログサーバーを指定できます。
 - プロビジョニンググループのメンバーである対象ユーザー。
 - 対象ユーザー用の任意の新しいインターネットメールアーカイブを作成するポルトストア。インターネットメールアーカイブが任意の対象ユーザー用にすでに存在する場合、Enterprise Vault はそのアーカイブを使用します。

対象ユーザーの電子メールアドレスを入力する場合、Enterprise Vault はそのアドレスを使用して Active Directory からアカウントを検索します。見つかった場合、アーカイブには Active Directory ユーザーの名前が付けられます。Active Directory アカウントが見つからない場合、電子メールアドレスがアーカイブ名に使われます。管理者は、電子メールアドレスの名前で作成されたすべてのアーカイブに、ユーザー権限を付与する必要があります。

- グループに割り当てる保持カテゴリまたは保持計画。保持計画またはカテゴリを選択するか、ウィザードで新規作成できます。
 - プロビジョニングがグループのメンバーに対して作成する、新しいインターネットメールアーカイブに適用するためのインデックス設定。
 - すべての SMTP プロビジョニンググループの SMTP プロビジョニングタスクをホストするための Enterprise Vault サーバー。このタスクは、プロビジョニンググループの対象に必要なポリシーを適用します。サイトにある任意の Enterprise Vault サーバーでタスクをホストできます。
- 5 新しいプロビジョニンググループは、SMTP プロビジョニングタスクが次に実行されるときに設定されます。タスクのプロパティまたはコンテキストメニューの[今すぐ実行]オプションを使用して、タスクを即座に実行できます。
- 6 プロビジョニングタスクの実行が終了したら、Enterprise Vault SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを再起動します。サイトに複数の Enterprise Vault SMTP サーバーが存在する場合、各 SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを開始する必要があります。

SMTP プロビジョニンググループの順序の変更

プロビジョニンググループの表示順序は重要です。プロビジョニングでは、リストの上から下の順にグループが処理されます。このセクションでは、Enterprise Vault によるプロビジョニンググループの処理順序を変更する方法について説明します。

プロビジョニンググループの順序付けを使用して、プロビジョニングの Windows ユーザーを除外または包含できます。

- 選択した Windows グループに含まれる特定のユーザーを除外します。
複数のプロビジョニンググループに同じユーザーを含めることはできませんが、Enterprise Vault によるユーザーのプロビジョニングは、そのユーザーを含む最初のグループを使用して 1 回のみ行われます。この機能は、特定の Windows セキュリティグループに含まれるユーザーをプロビジョニングし、それらのユーザーのサブセットは除外する場合に便利です。

これは、除外するユーザーを対象とするプロビジョニンググループを作成することで実現できます。このプロビジョニンググループを、アーカイブを有効にしないで設定します。このプロビジョニンググループの優先度を最も高くすると、他のプロビジョニンググループによる対象ユーザーのアーカイブの有効化が防止されます。

- 以前除外したユーザーを、選択した **Windows** グループの残りの部分と同じ方法でプロビジョニングします。
プロビジョニンググループを削除することも、プロビジョニンググループから対象ユーザーを削除することも可能です。優先度が低いプロビジョニンググループでもこれらのユーザーが対象になっている場合、**SMTP** プロビジョニングタスクが次回実行されるときに、ユーザーのターゲットが作成されます。

SMTP プロビジョニンググループの一覧には、**SMTP** グループジャーナルと **SMTP** メールボックスジャーナルの両方のプロビジョニンググループが含まれます。ユーザーが複数のプロビジョニンググループに含まれる場合、プロビジョニングタスクはそれらを、優先度が最も高いグループのメンバーとしてのみ処理します。より優先度の低いプロビジョニンググループを処理する際は、これらのユーザーを無視します。つまり、対象ユーザーを **SMTP** グループジャーナルと **SMTP** メールボックスジャーナルの両方に対してプロビジョニングすることはできません。

Enterprise Vault が **SMTP** プロビジョニンググループを処理する順序を変更するには

- 1 管理コンソールツリーで、[プロビジョニンググループ] ノードを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
- 2 [ドメイン] の一覧でドメインを選択して、そこに含まれているプロビジョニンググループを表示します。
- 3 グループを並べ替えるには [上に移動] ボタンと [下に移動] ボタンを使用します。
最も限定的なグループを一覧の一番上にして、最も限定されないグループを一覧の一番下にします。

変更は、次回 **SMTP** プロビジョニングタスクが実行されたときに有効になります。

SMTP プロビジョニンググループの削除

SMTP プロビジョニンググループは削除できます。プロビジョニンググループを削除する際、グループ内のすべての **SMTP** ターゲットは、別のグループに存在しない限り **Enterprise Vault** から削除されます。

対象ユーザーまたはグループはプロビジョニンググループから削除できます。ユーザーまたはグループが **Active Directory** のユーザーまたはグループの場合、そのユーザーまたはグループのすべてのターゲット **SMTP** アドレスは削除されます。 **Enterprise Vault** は、ターゲットアーカイブやアーカイブの内容を削除しません。

ターゲットの削除は、**SMTP** プロビジョニングタスクが次に実行されるときに実行されます。 **Enterprise Vault** は、削除されたターゲットについて、アイテムのアーカイブを停止します。

SMTP プロビジョニンググループを削除するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [対象]コンテナを展開して、[SMTP]コンテナを展開します。
- 3 [プロビジョニンググループ]コンテナをクリックします。
- 4 削除するプロビジョニンググループを右クリックして、ショートカットメニューから[削除]を選択します。
- 5 警告ダイアログボックスで、[はい]をクリックします。
Enterprise Vault が管理コンソールからプロビジョニンググループを削除します。
- 6 SMTP プロビジョニングタスクを実行します。

SMTP プロビジョニングタスクの追加または削除

SMTP プロビジョニングタスクは、プロビジョニンググループ内の各対象ユーザーに、プロビジョニンググループの設定を適用します。これには、必要なアーカイブの対象ユーザーへのリンク付け、グループメンバーとアーカイブへのグループポリシーおよび保持設定の適用が含まれます。SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループを処理する際、プロビジョニングタスクは、インターネットメールアーカイブがまだないグループメンバー用に、新しいインターネットメールアーカイブを作成します。

このセクションで説明するように、SMTP プロビジョニングタスクを手動で追加することも、SMTP プロビジョニンググループを初めて追加するときに Enterprise Vault で自動的にこのタスクを追加することもできます。

タスクは 1 日に 1 回または 2 回実行され、管理コンソールに一覧表示される順にプロビジョニンググループを処理します。タスクのプロパティまたはコンテキストメニューの[今すぐ実行]オプションを使用して、タスクを即座に実行することもできます。

新しいサーバー上で SMTP プロビジョニングタスクをホストする場合は、まず、現在のサーバーからそのタスクを削除する必要があります。その後、新しいサーバーにタスクを追加できます。

SMTP プロビジョニングタスクを追加するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[Enterprise Vault サーバー]コンテナを探して展開します。
- 2 SMTP プロビジョニングタスクを追加するサーバーのコンテナを展開します。
- 3 [タスク]コンテナを右クリックし、[新規作成]、[SMTP プロビジョニングタスク]の順にクリックします。
[新規 SMTP プロビジョニングタスク]ダイアログボックスが表示されます。
- 4 フィールドに入力して[OK]をクリックします。このダイアログボックスでは、次の項目の指定が求められます。

- タスクを関連付けるドメイン。
 - タスクの名前。
 - タスクを今すぐ開始するかどうか。タスクを開始する前に設定する場合は、このオプションをオフにして手順 5 の指示に従います。
設定には、毎日のタスクが実行される時刻と、プロビジョニングの各実行でタスクが実施するレポートのレベルが含まれます。
- 5 タスクを設定するには、右ペインで右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
プロパティダイアログボックスの各フィールドについては、オンラインヘルプに詳しく記載されています。

SMTP プロビジョニングタスクを削除するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[Enterprise Vault サーバー]コンテナを探して展開します。
- 2 SMTP プロビジョニングタスクを削除するサーバーのコンテナを展開し、その後[タスク]コンテナをクリックします。
- 3 SMTP プロビジョニングタスクが実行されている場合、[<ドメイン> の SMTP プロビジョニングタスク]を右クリックして、[停止]をクリックします。
- 4 [<ドメイン> の SMTP プロビジョニングタスク]を右クリックし、ショートカットメニューから[削除]を選択します。
- 5 警告ダイアログボックスで、[はい]をクリックします。

Enterprise Vault は、管理コンソールからプロビジョニングタスクを削除します。

SMTP プロビジョニングタスクの概略レポート

SMTP プロビジョニングタスクは、実行が終了するごとに、
`Enterprise_Vault_installation_folder\Reports\SMTP Provisioning` フォルダに概略レポートを生成します。SMTP プロビジョニングタスクのプロパティの[レポート]タブで、レポートオプションを設定できます。

SMTP サイト設定[選択したジャーナルのアーカイブ]の設定

SMTP グループジャーナルおよび SMTP メールボックスジャーナルについては、SMTP サイトの詳細設定値である[選択したジャーナルのアーカイブ]を[包含]または[除外]にする必要があります。最初のプロビジョニンググループを作成する際、Enterprise Vault は[包含]に値を自動的に設定します。

一般的な SMTP ジャーナルを、SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルとともに実装する場合、ターゲットアドレスを含むメッセージがどこに格納されるかはこの設定によって制御されます。

- [包含]。対象ユーザーのアドレスを含むメッセージは、次のアーカイブの両方に格納できます。
 - ルーティングアドレスに割り当てられている SMTP ジャーナルアーカイブ。
 - 対象ユーザーに割り当てられているアーカイブ (SMTP メールボックスジャーナル)、または対象ユーザーを含むグループに割り当てられているアーカイブ (SMTP グループジャーナル)。
- [除外]。対象ユーザーのアドレスを含むメッセージは、対象ユーザーに割り当てられているアーカイブ (SMTP メールボックスジャーナル)、または対象ユーザーを含むグループに割り当てられているアーカイブ (SMTP グループジャーナル) にのみ格納されます。
対象ユーザーのアドレスを含まないメッセージは、ルーティングアドレスに割り当てられている SMTP ジャーナルアーカイブに格納されます。

対象ユーザーが、一般的な SMTP ジャーナルデータとは別に保管する必要のある機密データを持っている場合は、[除外]値を設定できます。

表 5-1 では、SMTP アーカイブタスクが、[選択したジャーナルのアーカイブ]の値、およびルーティングアドレスでアーカイブが有効か無効かに応じて、どのようにメッセージのアーカイブ場所を決定するかを詳しく説明します。提供された情報では、メッセージに Enterprise Vault SMTP サーバーの正しいルーティングアドレスが含まれていると見なします。

表 5-1 [包含]と[除外]の値がアーカイブタスクの動作に与える影響

SMTP ジャーナルおよび SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルの設定	SMTP アーカイブタスクの動作
<ul style="list-style-type: none">■ [選択したジャーナルのアーカイブ]が [包含]に設定されている■ プロビジョニンググループまたは手動ターゲット、およびルーティングアドレスは、アーカイブが有効になっています。	<p>タスクは、SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルのターゲットアドレスの各メッセージで、送信者と受信者のフィールド (X-RCPT-TO、To、CC、BCC、From、Sender) を検索します。タスクがターゲットアドレスを見つけると、そのターゲットアドレスに関連付けられているアーカイブにメッセージを格納します。アーカイブは、SMTPグループジャーナルのグループに関連付けられたアーカイブ、または SMTP メールボックスジャーナルの対象ユーザーに関連付けられたアーカイブです。</p> <p>メッセージのコピーも、ルーティングアドレスに関連付けられたアーカイブに格納されます (SMTP ジャーナル)。</p>

SMTP ジャーナルおよび SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルの設定	SMTP アーカイブタスクの動作
<ul style="list-style-type: none"> ■ [選択したジャーナルのアーカイブ]が [包含]に設定されている ■ プロビジョニンググループまたは手動ターゲットは、アーカイブが有効になっています。 ■ ルーティングアドレスは、アーカイブが無効です。 	<p>タスクは、SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルのターゲットアドレスの各メッセージで、送信者と受信者のフィールド (X-RCPT-TO、To、CC、BCC、From、Sender) を検索します。タスクがターゲットアドレスを見つけると、そのターゲットアドレスに関連付けられているアーカイブにメッセージを格納します。アーカイブは、SMTP グループジャーナルのグループに関連付けられたアーカイブ、または SMTP メールボックスジャーナルの対象ユーザーに関連付けられたアーカイブです。</p> <p>タスクは、ルーティングアドレスと関連付けられたアーカイブにメッセージを格納しません (SMTP ジャーナル)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ [選択したジャーナルのアーカイブ]が [除外]に設定されている ■ プロビジョニンググループまたは手動ターゲット、およびルーティングアドレスは、アーカイブが有効になっています。 	<p>タスクはまず、SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルのターゲットアドレスの各メッセージで、送信者と受信者のフィールド (To、CC、BCC、From、Sender) を検索します。タスクがターゲットアドレスを見つけると、そのターゲットアドレスに関連付けられているアーカイブにメッセージを格納します。アーカイブは、SMTP グループジャーナルのグループに関連付けられたアーカイブ、または SMTP メールボックスジャーナルの対象ユーザーに関連付けられたアーカイブです。</p> <p>対象ユーザーのアドレスがメッセージの受信者フィールド (To、CC、BCC、From、Sender) で見つからなかった場合、アーカイブタスクは、ルーティングアドレスと関連付けられたアーカイブにメッセージを格納します。</p>

SMTP サイト設定[選択したジャーナルのアーカイブ]を設定するには

- 1 サイトのプロパティを開き、[詳細]タブを選択します。

[一覧表示する設定の種類]ボックスで、[SMTP]を選択します。
- 2 [選択したジャーナルのアーカイブ]をクリックし、[修正]をクリックします。
- 3 必要に応じて、[包含]または[除外]に値を設定します。
- 4 設定の変更を適用し、サイトのプロパティのダイアログボックスを閉じます。
- 5 これらの設定変更は、Enterprise Vault SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを再起動したときに反映されます。サイトに複数の Enterprise Vault SMTP サーバーが存在する場合、各 SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを開始する必要があります。

SMTP ターゲットアドレスの手動での追加

SMTP グループジャーナルと SMTP メールボックスジャーナルでは、SMTP ターゲットアドレスの追加と管理に SMTP プロビジョニンググループを使用することをお勧めします。

必要に応じて、このセクションの説明に従って手動で SMTP ターゲットアドレスを追加するか、PowerShell コマンドレットの `New-EVSMTPTarget` を使用できます。

Enterprise Vault 管理コンソールを使って SMTP ターゲットアドレスを追加するには

- 1 ナビゲーションペインで、[対象]、[SMTP]、[手動ターゲット]の順に移動します。
- 2 [手動ターゲット]コンテナを右クリックし、[新規作成]、[対象の電子メールアドレス]の順に選択します。

新規 SMTP ターゲットウィザードが起動します。

- 3 `user @ domain` の形式でターゲットアドレスを入力します。ワイルドカード文字は SMTP ターゲットアドレスを指定するときは許可されません。

- 4 ターゲットアドレスのジャーナルの種類を選択します。

この画面で利用可能なジャーナルのタイプは、SMTP サイト設定[選択したジャーナルのアーカイブ]の値によって決まります。グループジャーナルまたはメールボックスジャーナルを選択するには、サイト設定値が[包含]または[除外]である必要があります。

p.75 の「SMTP サイト設定[選択したジャーナルのアーカイブ]の設定」を参照してください。

- 5 ターゲットアドレスを含むメッセージに適用する SMTP ポリシーを選択します。[次へ]をクリックします。
- 6 [追加]をクリックし、ターゲットのメッセージを格納する 1 つまたは複数のアーカイブを選択します。このターゲットに新しい SMTP アーカイブを作成する場合は、[新規作成]をクリックします。[次へ]をクリックします。
- 7 メッセージに適用する保持設定を選択します。[次へ]をクリックします。

メモ: ターゲットのアーカイブが、他のアーカイブに関連付けられた別のターゲットにも関連付けられている場合、保持設定への変更は複数のアーカイブに適用されることがあります。

- 8 ターゲットプロパティの概略が表示されます。[完了]をクリックします。
- 9 SMTP グループジャーナルまたは SMTP メールボックスジャーナルを設定した後にこのターゲットアドレスを追加する場合は、タスクプロパティまたはコンテキストメニューの[今すぐ実行]オプションを使用して SMTP プロビジョニングタスクを再実行します。
- 10 SMTP プロビジョニングタスクの実行が終了したら、Enterprise Vault SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを再起動します。サイトに複数の Enterprise Vault SMTP サーバーが存在する場合、各 SMTP サーバーで SMTP アーカイブタスクを開始する必要があります。

SMTP ダッシュボードの使い方

この章では以下の項目について説明しています。

- [SMTP ダッシュボードについて](#)
- [\[概略\]ページの使用](#)
- [\[検索\]ページの使用](#)
- [\[SMTP アーカイブ\]ページの使用](#)

SMTP ダッシュボードについて

管理コンソールの SMTP ダッシュボードを使用すると、SMTP プロビジョニングを使用して設定した SMTP ターゲットを検索できます。このダッシュボードを使用して、SMTP ターゲットの一覧表示、ターゲットの検索、およびターゲットの設定詳細の表示を行います。ダッシュボードを開くには、[対象]の下の[SMTP]ノードをクリックします。

ダッシュボードには次のページがあります。

- [\[概略\]](#)。このページを表示するには、ダッシュボードの[概略]タブをクリックします。このページには利用可能なプロビジョニンググループが一覧表示され、プロビジョニングされたターゲットについての概要情報が表示されます。
- [\[検索\]](#)。このページを表示するには、ダッシュボードの[検索]タブをクリックします。このページでは、プロビジョニングされた SMTP ターゲットを検索できます。
- [\[SMTP アーカイブ\]](#)。このページは、検索結果でターゲットをクリックすると表示されます。[SMTP アーカイブ]ページには、ターゲットの詳細な設定情報が表示されます。

[概略] ページの使用

[概略] ページには、SMTP ターゲット設定についての概略情報が表示されます。この情報には、SMTP グループジャーナルと SMTP メールボックスジャーナルのプロビジョニンググループの数、プロビジョニングされた **Active Directory** ユーザーと非 **Active Directory** ユーザーの数、およびアーカイブが有効になっているターゲットの数が含まれます。

設定済みのプロビジョニンググループもこのページに表示されます。プロビジョニンググループ名をクリックすると、[検索] ページが開きます。ページには、検索結果としてグループ内のターゲットが表示されます。

[検索] ページの使用

[検索] ページでは、プロビジョニングされた SMTP ターゲットの検索、検索結果の確認、および検索結果のファイルへのエクスポートを行えます。

- プロビジョニングされたすべての SMTP ターゲットを一覧表示するには、検索基準を選択せずに [検索] をクリックします。
- プロビジョニンググループに含まれるターゲットを一覧表示するには、[概略] ページでプロビジョニンググループ名をクリックします。[検索] ページが開き、グループ内のすべてのターゲットが表示されます。
または、[検索] ページで、検索のドロップダウンボックスから [プロビジョニンググループ] を選択します。検索するプロビジョニンググループの名前を入力し、[検索] をクリックします。検索結果に、プロビジョニンググループに含まれるターゲットが一覧表示されます。
- 特定のターゲットを検索するには、検索のドロップダウンボックスから [アーカイブ名]、[ユーザー名]、または [電子メールアドレス] を選択し、ターゲットの値の一部またはすべてを入力します。

検索結果数が多い場合は、複数のページに表示されます。1 ページに表示される検索結果は 250 件です。

検索結果は、ドロップダウンボックスで利用可能な基準を使用してフィルタ処理できます。たとえば、プロビジョニンググループの種類やアーカイブ状態を基準にして検索結果をフィルタ処理できます。

検索結果を昇順または降順で並べ替えるには、対象の列ヘッダーをクリックします。

検索結果の右上にある [CSV でエクスポート] オプションを使用すると、検索結果を CSV ファイルに保存できます。すべてのページがエクスポートされます。ファイルの内容には、検索結果に適用した並べ替えやフィルタ処理が反映されます。

検索結果のターゲット名をクリックすると、ブラウザで [SMTP アーカイブ] ページが開きます。[SMTP アーカイブ] ページには、ターゲットの詳しい設定情報が表示されます。

[SMTP アーカイブ] ページの使用

ダッシュボードの[検索]ページで検索結果のターゲット名をクリックすると、デフォルトのブラウザで[SMTP アーカイブ]ページが開きます。

[SMTP アーカイブ]ページには、ターゲットの SMTP アーカイブ設定が一覧表示されます。情報には、次の詳細が含まれます。

- ターゲットに関連付けられているプロビジョニンググループ。
- ターゲットに割り当てられている保持カテゴリと保持ポリシー。
- ターゲットに関連付けられている SMTP アドレス。
- ターゲットに関連付けられているアーカイブの詳細。

PowerShell cmdlet

この章では以下の項目について説明しています。

- SMTP アーカイブの PowerShell コマンドレットについて

SMTP アーカイブの PowerShell コマンドレットについて

表 7-1 は Enterprise Vault 管理シェルが SMTP アーカイブ構成を管理するために提供する PowerShell コマンドレットの一覧です。コマンドレットについて詳しくは『PowerShell コマンドレット』ガイドを参照してください。

表 7-1 SMTP アーカイブのための PowerShell コマンドレット

PowerShell cmdlet	説明
Get-EVSMTPHoldingFolder	現在の Enterprise Vault サーバーの SMTP アーカイブタスクに設定している SMTP 保存フォルダの詳細を取り込みます。
Get-EVSMTPMessageTrackingLogLocation	メッセージ追跡ログファイルの場所を表示します。
Set-EVSMTPMessageTrackingLogLocation	メッセージ追跡ログファイルの場所を更新します。
Get-EVSMTPPolicy	既存の SMTP ポリシーのプロパティを取得します。
New-EVSMTPPolicy	新しい SMTP ポリシーを作成します。
Remove-EVSMTPPolicy	SMTP ポリシーを削除します。
Set-EVSMTPPolicy	既存の SMTP ポリシーのプロパティを更新します。

PowerShell cmdlet	説明
Get-EVSMTPTarget	既存の SMTP ターゲットのプロパティを取り込みます。
New-EVSMTPTarget	新しい SMTP ターゲットアドレスを追加します。
Remove-EVSMTPTarget	SMTP ターゲットアドレスを削除します。
Set-EVSMTPTarget	既存の SMTP ターゲットアドレスのプロパティを更新します。
Get-EVSMTPServerSettings	サイトのすべての Enterprise Vault SMTP サーバーに適用する SMTP サーバー設定を取得します。
New-EVSMTPServerSettings	サイトのすべての Enterprise Vault SMTP サーバーに適用する SMTP サーバー設定を作成します。
Set-EVSMTPServerSettings	サイトのすべての Enterprise Vault SMTP サーバーに適用する SMTP サーバー設定を更新します。
Sync-EVSMTPServerSettings	指定した Enterprise Vault SMTP サーバーに、Enterprise Vault ディレクトリの SMTP サーバー設定を同期します。

X-Header のリストを管理する方法について詳しくは、`get-help about_SMTPXHeaders` と入力してください。

次のコマンドは、SMTP サーバーへの入接続の認証の管理に関する情報を提供します。

- `get-help about_SMTPConnectionControlList`
- `get-help about_SMTPEnumerations`
- `get-help about_TlsCertificate`

ターゲットアドレスの書き換えの設定

この付録では以下の項目について説明しています。

- [ターゲットアドレスの書き換えについて](#)
- [ターゲットアドレスの書き換えを設定する手順](#)
- [SMTP ターゲットアドレスの追加](#)
- [ターゲットアドレスのエイリアスの追加](#)

ターゲットアドレスの書き換えについて

1 つまたは 2 つの SMTP ルーティングアドレスを使って Enterprise Vault に大量の SMTP トラフィックを送信する場合は、複数の Enterprise Vault SMTP サーバー全体に着信メッセージを分散する負荷分散ソリューションを使うことができます。たとえば、単純な負荷分散ソリューションでは、Enterprise Vault SMTP サーバーの DNS で MX レコードのユーザー設定を等しく設定します。

単一の SMTP ルーティングアドレスを使って Enterprise Vault にメッセージを送信する Enterprise Vault SMTP ジャーナルの設定では、すべてのメッセージはルーティングアドレスと関連付けられたアーカイブに保存されます。各 SMTP サーバーでターゲットアドレスの書き換えを実装すると、複数のアーカイブと Enterprise Vault ストレージサーバーにアーカイブの負荷を分散できます。ターゲットアドレスを書き換えて、各 SMTP サーバーに着信したメッセージを異なるターゲットアドレスにリダイレクトしてアーカイブします。

単一の SMTP ルーティングアドレスを使って Enterprise Vault にメッセージを送信する Enterprise Vault SMTP ジャーナルの設定では、すべてのメッセージはルーティングアドレスと関連付けられたアーカイブに保存されます。Enterprise Vault 12.3 以降では、複数のアーカイブおよび Enterprise Vault ストレージサーバーにアーカイブの負荷を分散

するため、SMTP ジャーナルのルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループには複数のアーカイブを割り当てることができます。

p.61 の「アーカイブの負荷を複数のサーバー間で分散するための複数のアーカイブの割り当て」を参照してください。

以前のリリースの Enterprise Vault では、負荷を分散するためにターゲットアドレスの書き換えを実装できるだけでした。

以降のセクションでは、Enterprise Vault SMTP サーバーでターゲットアドレスの書き換えを設定する方法について説明します。このガイドでは、DNS MX レコードを設定して負荷分散する方法については説明していません。

図 A-1 アドレスを書き換えない SMTP ジャーナル

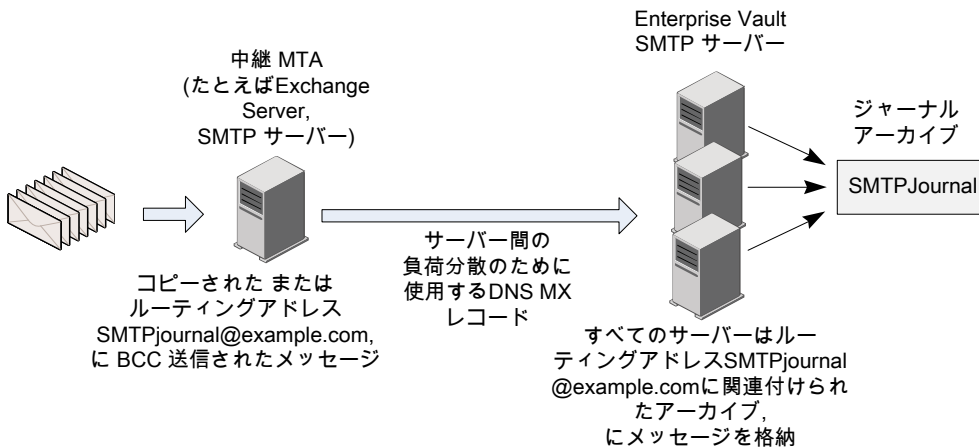


図 A-1 に、MX レコードのユーザー設定が等しく、複数の Enterprise Vault SMTP サーバーに着信メッセージの基本的な負荷分散を行う環境例を示します。Enterprise Vault 環境の例では次のように設定しています。

- すべての SMTP メッセージは SMTPjournal@example.com という同じ SMTP ルーティングアドレスに送信されます。
- 異なる Enterprise Vault SMTP サーバーに SMTPjournal@example.com の SMTP メッセージを均等に分散します。
- Enterprise Vault Administration Console で、SMTPjournal@example.com を SMTP ターゲットアドレスとして設定し、アーカイブを有効にします。このターゲットに設定するアーカイブは SMTPJournal です。
この設定によって、すべての SMTP メッセージは SMTPJournal という 1 つのアーカイブに格納されます。

前の例では、複数の Enterprise Vault SMTP サーバーに SMTP トラフィックを分散しますが、すべてのサーバーは同じアーカイブにメッセージを格納します。複数のアーカイブにアーカイブの負荷を分散するには、SMTP サーバーでターゲットアドレスの書き換えを実装します。次の図でこの例を示します。

図 A-2 アドレスを書き換えた SMTP ジャーナル

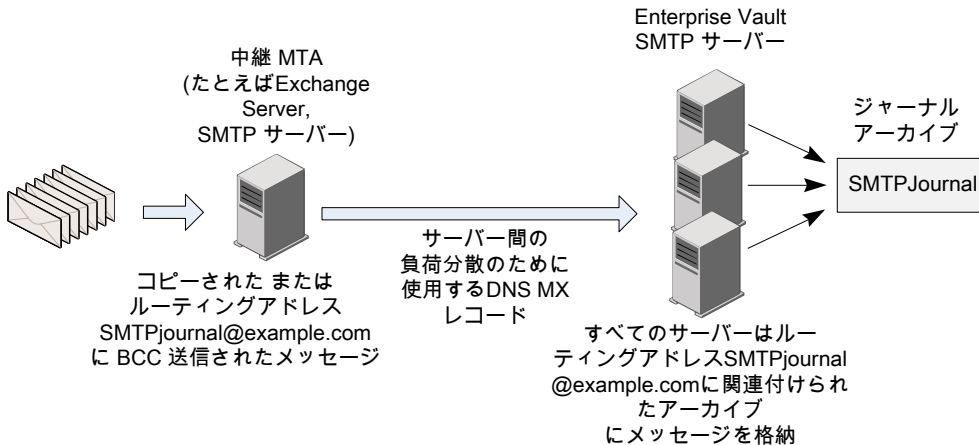


図 A-2 の環境例では、次のように設定しています。

- 前の例のように、すべての SMTP メッセージは SMTPjournal@example.com という同じ SMTP ルーティングアドレスに送信されます。
- Enterprise Vault Administration Console で、SMTPjournal@example.com を SMTP ターゲットアドレスとして設定します。アドレスを書き換えると、異なるターゲットアドレスとアーカイブにメッセージが送信されるので、このターゲットアドレスのアーカイブは有効ではありません。
- アドレスの書き換えを実装するには、それぞれの SMTP サーバーのエイリアスファイルにエイリアスのエントリを手動で追加します。たとえば、最初の SMTP サーバーで、エイリアスを SMTPserver1 にするとします。このサーバーが受信する各メッセージのターゲットルーティングアドレスは、SMTPserver1@example.com に書き換えられます。
2 番目の SMTP サーバーで、エイリアスを SMTPserver2 にすると、このサーバーが受信する各メッセージのターゲットルーティングアドレスは SMTPserver2@example.com に書き換えられます。以降のサーバーでも同様に書き換えられます。
- Enterprise Vault Administration Console で、各サーバーのエイリアスのアドレス (SMTPserver1@example.com、SMTPserver2@example.com、

SMTPserver3@example.com)を SMTP ターゲットアドレスとして設定し、アーカイブを有効にします。

Enterprise Vault は、ターゲットアドレスに関連付けられたアーカイブにメッセージを格納します。アーカイブの SMTPjournal1 はターゲットの

SMTPserver1@example.com に関連付けられ、アーカイブの SMTPjournal2 はターゲットの SMTPserver2@example.com に関連付けられます。以降のアーカイブも同様に関連付けられます。

ターゲットアドレスの書き換えを設定する手順

このセクションでは、Enterprise Vault SMTP サーバーでターゲットアドレスの書き換えを設定する手順を示します。表に示されている順序でタスクを実行します。

表 A-1 ターゲットアドレスの書き換えを設定する手順

手順	作業	関連情報
手順 1	各 SMTP ルーティングアドレスとエイリアスのアドレスに割り当てるアーカイブを決定します。アーカイブが存在しない場合は作成します。	p.58 の「SMTP メッセージのアーカイブの設定」を参照してください。
手順 2	Enterprise Vault 管理コンソールで、SMTP のターゲットとして、ルーティングアドレスとエイリアスのアドレスを追加します。	p.87 の「SMTP ターゲットアドレスの追加」を参照してください。
手順 3	各 Enterprise Vault SMTP サーバーで、適切なエイリアスのファイルにターゲットアドレスのエイリアスを追加します。	p.88 の「ターゲットアドレスのエイリアスの追加」を参照してください。

SMTP ターゲットアドレスの追加

SMTP ターゲットアドレスを設定する前に、各ターゲットアドレスに割り当てるアーカイブを決定します。アーカイブが存在しない場合は作成します。アドレスを書き換えて異なるアーカイブにメッセージをリダイレクトする場合でも、各 SMTP ルーティングアドレスに既存のアーカイブを割り当てる必要があります。

Enterprise Vault Administration Console を使って SMTP ターゲットとして各ルーティングアドレスと各エイリアスのアドレスを追加します。新しいドメインの SMTP ターゲットアドレスを追加すると、ドメインのエイリアスのファイルが自動的に作成されます。

SMTP ターゲットアドレスを追加するには

- 1 ナビゲーションペインで、[対象]、[SMTP]、[手動ターゲット]の順に移動します。
- 2 [手動ターゲット]コンテナを右クリックし、[新規作成]、[対象の電子メールアドレス]の順に選択します。
新規 SMTP ターゲットウィザードが起動します。
- 3 **user @ domain** の形式でターゲットアドレスを入力します。ワイルドカード文字は SMTP ターゲットアドレスを指定するときは許可されません。
- 4 ターゲットに設定する SMTP ジャーナルの種類を選択します。
- 5 ターゲットアドレスを含むメッセージに適用する SMTP ポリシーを選択します。[次へ]をクリックします。
- 6 これらのメッセージを格納するアーカイブを選択します。[次へ]をクリックします。
- 7 メッセージに適用する保持設定を選択します。[次へ]をクリックします。
- 8 ターゲットプロパティの概略が表示されます。[完了]をクリックします。
- 9 SMTP ターゲットアドレスのプロパティダイアログボックスを開きます。

ターゲットがエイリアスの作成先の SMTP ルーティングアドレスである場合は、[この SMTP アドレスで送信または受信したメッセージをアーカイブする]というチェックボックスのチェックマークをはずします。

ターゲットがエイリアスのアドレスの場合は、[この SMTP アドレスで送信または受信したメッセージをアーカイブする]チェックボックスに必ずチェックマークを付けます。

ターゲットアドレスのエイリアスの追加

Enterprise Vault Administration Console を使って SMTP ターゲットアドレスを追加する場合は、サイトの各 Enterprise Vault SMTP サーバーにある次のフォルダにエイリアスのファイルが自動的に追加されます。

`Enterprise Vault installation folder¥SMTP¥DATA¥etc¥switch`

エイリアスのファイルの名前はターゲットアドレスのドメイン部分です。たとえば、SMTPjournal@example.com というターゲットアドレスを追加する場合には、エイリアスのファイル名は example.com です。異なるドメインのターゲットを追加すると、Enterprise Vault は、異なるドメインの別のエイリアスをファイル名として追加します。

エイリアスのファイルはすべての SMTP サーバーに自動的に追加されますが、1 台の SMTP サーバーのエイリアスファイルに追加したエントリは、他の SMTP サーバーのエイリアスファイルに伝播されません。

Enterprise Vault Administration Console で、SMTP ターゲットアドレスとして各エイリアスのアドレスを設定する必要があります。

p.87 の「SMTP ターゲットアドレスの追加」を参照してください。

ビルディングブロック環境では、サイトの SMTP サーバーのすべてでメッセージをアーカイブできるので、新しい SMTP サーバーにエイリアスのファイルをコピーする必要はありません。

ターゲットアドレスのエイリアスを追加するには

- 1 エイリアスを作成する Enterprise Vault SMTP サーバーにログインします。ボルトサービスのアカウントまたは SMTP 管理者ロールに割り当てられたアカウントを使ってログインします。SMTP 管理者ロールには、メッセージ管理者ロールとメイン管理者ロールにも含まれます。
- 2 `Enterprise Vault installation folder¥SMTP¥DATA¥etc¥switch` フォルダに移動します。
- 3 ファイル名にターゲットアドレスのドメインが含まれるエイリアスのファイルを検索します。標準的なテキストエディタを使ってファイルを開きます。
- 4 次の形式でエイリアスのエントリを追加します。

incoming_name:alias redirect_name

incoming_name は、着信ルーティングアドレスのローカル名の部分です。

redirect_name は、メッセージをリダイレクトするターゲットアドレスのローカル名の部分です。

たとえば、SMTPjournal@example.com から SMTPserver1@example.com に届いた着信メッセージのターゲットアドレスを書き換えるには、example.com というエイリアスのファイルに次のエントリを追加します。

SMTPjournal:alias SMTPserver1

- 5 ファイルを保存します。
- 6 Enterprise Vault SMTP サービスを再起動します。このサービスは、Windows サービスコンソールに表示されます。